牛頸石坂窯跡

—C 地点—

福岡県大野城市大字牛頸所在窯跡調査報告

大野城市文化財調査報告書

第 14 集

1985

大野城市教育委員会

牛 頸 石 坂 窯 跡

— C 地 点 —

福岡県大野城市大字牛頸所在窯跡調査報告

大野城市文化財調査報告書

第 14 集

序

大野城市大字牛頸一帯は須恵器を焼いた窯跡が数多くあり、牛頸窯跡群として全国的にその名を知られています。窯は6世紀中頃から8世紀後半まで作られました。ここで生産された須恵器は筑前一帯に運ばれていったと思われますが、奈良時代には西の都大宰府で大量に使用されたと推定されています。

このたび福岡中央霊園の拡張に伴って窯跡の発掘調査を実施しましたが、ここは奈良時代の窯跡でした。食器に使ったと思われる多くの土器の中に1つだけ硯の破片が見つかりました。大宰府の役人が使うために焼こうとしたものでしょう。

窯跡は大変な山の中にあって、当時製品の運搬はどうしたのだろうと思案させられるのですが、それだけに冬の調査の寒さはひとしおでした。民家の近所には霜や雪がなくても、現場では一面まっ白という日も数多くありました。

調査に協力していただいた（財）福岡中央霊園、矢西建設そして作業員の方々に厚く感謝しますと同時に、その成果が文化財保護思想の向上や古代史研究の進歩に貢献できることを願います。

昭和60年3月31日

大野城市教育委員会

教育長　**久　野　英　彦**

例　　言

1.　本書は大野城市教育委員会が（財）福岡中央霊園からの受託事業として実施した牛頸石坂窯跡群発掘調査の調査報告書である。

2.　遺物整理は秀嶋和子・井手美智子を中心として行なった。

3.　遺物写真は岡紀久夫が担当した。

4.　挿図と図版の遺物番号は窯跡ごとに統一している。

5.　牛頸窯跡群分布図は前田軍治氏作成のものに基づいている。

6.　本書の執筆・編集は舟山が担当した。

7.　本書に掲載した地形図には建設省国土地理院発行の2.5万分の１地形図『福岡南部』・『不入道』を使用した。

本　文　目　次

頁

Ⅰ．はじめに……1

Ⅱ．窯跡の位置と調査概要……1

Ⅲ．調査の結果……6

(1)　遺構……6

1）Ｃ１号窯跡……6

2）Ｃ２号窯跡……7

(2)　遺物……7

Ⅳ．まとめ……37

図　版　目　次

図版１　(1)　調査前

(2)　調査後

図版２　(1)　Ｃ１号窯跡検出状態

(2)　Ｃ１号窯跡調査後

図版３　(1)　Ｃ１号窯跡

(2)　Ｃ１号窯跡側壁

図版４　(1)　Ｃ２号窯跡灰原

(2)　Ｃ２号窯跡灰原

図版５　Ｃ１号窯跡出土須恵器①

図版６　Ｃ１号窯跡出土須恵器②

図版７　Ｃ１号窯跡出土須恵器③

図版８　Ｃ１号窯跡出土須恵器④

図版９　Ｃ１号窯跡出土須恵器⑤

図版10　Ｃ２号窯跡出土須恵器①

図版11　Ｃ２号窯跡出土須恵器②

図版12　Ｃ２号窯跡出土須恵器③

図版13　Ｃ２号窯跡出土須恵器④

図版14　Ｃ２号窯跡・トレンチ出土須恵器

挿　図　目　次

頁

第１図　牛頸窯跡群分布図（１／25,000）…… 2

第２図　石坂Ｃ１・Ｃ２号窯跡位置図（１／5,000）…… 3

第３図　Ｃ１号窯跡地形実測図（１／200）…… 4

第４図　Ｃ１号窯跡実測図（１／60）…… 5

第５図　トレンチ出土遺物実測図（１／３）…… 9

第６図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(1)（１／３）…… 10

第７図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(2)（１／３）…… 11

第８図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(3)（１／３）…… 12

第９図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(4)（１／３）…… 13

第10図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(5)（１／３）…… 14

第11図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(6)（１／３）…… 15

第12図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(7)（１／３）…… 16

第13図　Ｃ２号窯跡出土遺物実測図(1)（１／３）…… 17

第14図　Ｃ２号窯跡出土遺物実測図(2)（１／３）…… 18

第15図　Ｃ２号窯跡出土遺物実測図(3)（１／３）…… 19

第16図　Ｃ２号窯跡出土遺物実測図(4)（１／３）…… 20

第17図　Ｃ２号窯跡出土遺物実測図(5)（１／３）…… 21

第18図　Ｃ２号窯跡出土遺物実測図(6)（１／３）…… 22

第19図　Ｃ２号窯跡出土遺物実測図(7)（１／３）…… 23

第20図　Ｃ２号窯跡出土遺物実測図(8)（１／３）…… 24

Ⅰ．は　じ　め　に

（財）福岡中央霊園の拡張工事が計画されたが、予定地内には須恵器窯跡が含まれていた。窯跡の数を知るためユンボによる試掘を行なったところ、２基の存在が予想された。そのうち１基は窯跡本体が緑地保存地区に含まれたため、保存されることになり、残りの１基の調査が必要となった。以上のことをふまえ、大野城市教育委員会は（財）福岡中央霊園と受託契約を結び発掘調査にとりかかった。調査は昭和58年２～３月に実施した。また整理作業は昭和58年度事業として行ない、調査報告書は昭和59年度中に刊行することとなった。調査体制は以下の通りである。

大野城市教育委員会	教育長	二宮　親卯（調査当時）
同	教育長	久野　英彦（現在）
同	教育部長	後藤　幹生（調査当時）
同	教育部長	村上　信幸（現在）
同	社会教育課長	船越　美直
同	社会教育係長	赤星　健彦
同	社会教育文化財担当	後藤　秀規（調査当時）
同	社会教育文化財担当	高橋　裕司（現在）
同	社会教育調査技師	舟山　良一
同	嘱託	横大路俊明
同	整理補助員	秀嶋　和子

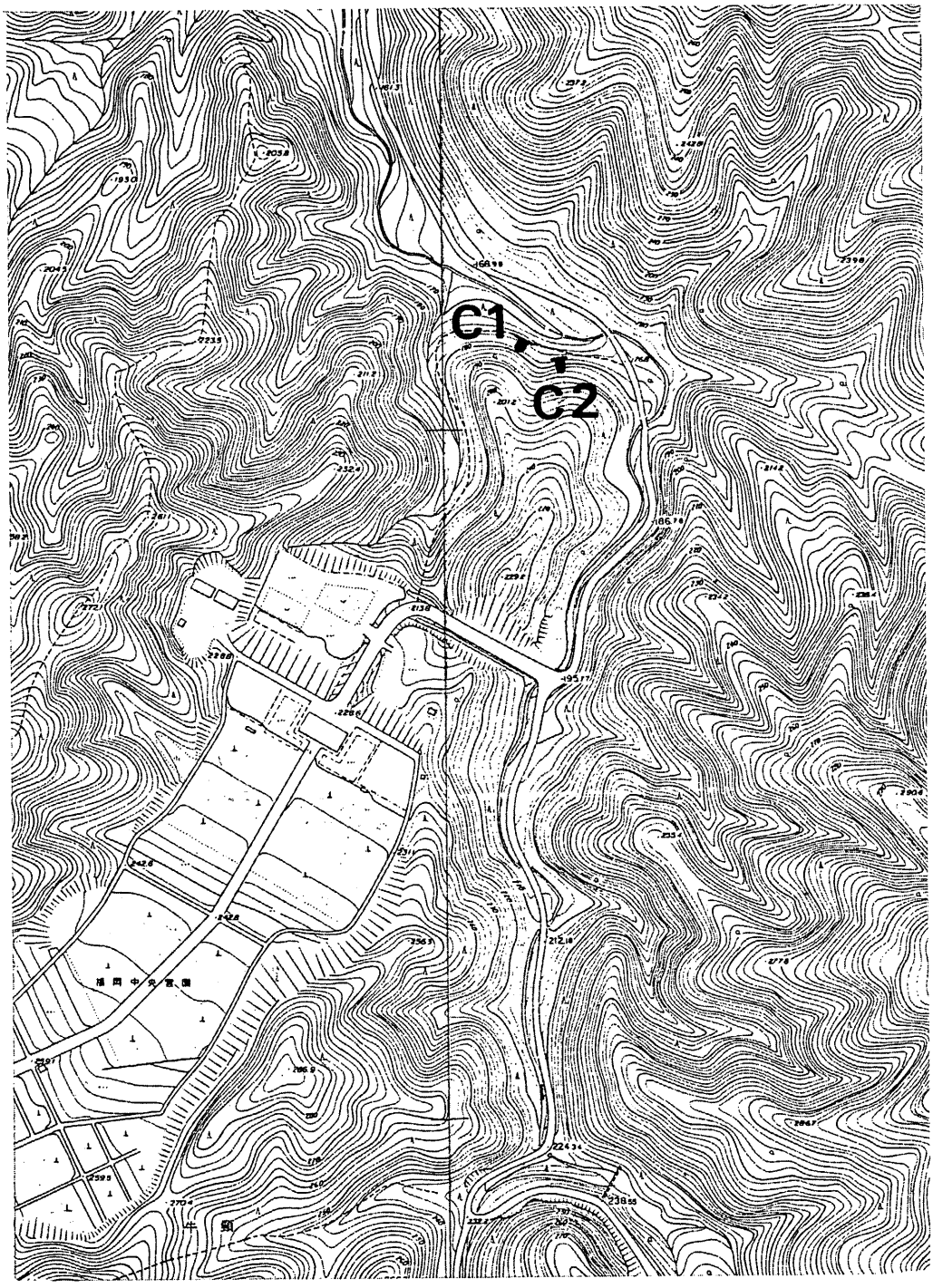
他に（財）福岡中央霊園、矢西建設には調査に当たって協力を得た。また、今回、調査した窯跡の存在は以前の文化財管理委員であった前田軍治氏にご教示願ったものである。更に県文化課の岩瀬正信氏・高田一弘氏には現地で助言を得た。合わせて感謝したい。

また、標高170ｍを越える山間部は降雪、霜にしばしば悩まされた。尾根に登れば博多湾を見おろせるような場所での厳寒時の調査に従事していただいた作業員の方々には心から感謝したいと思います。

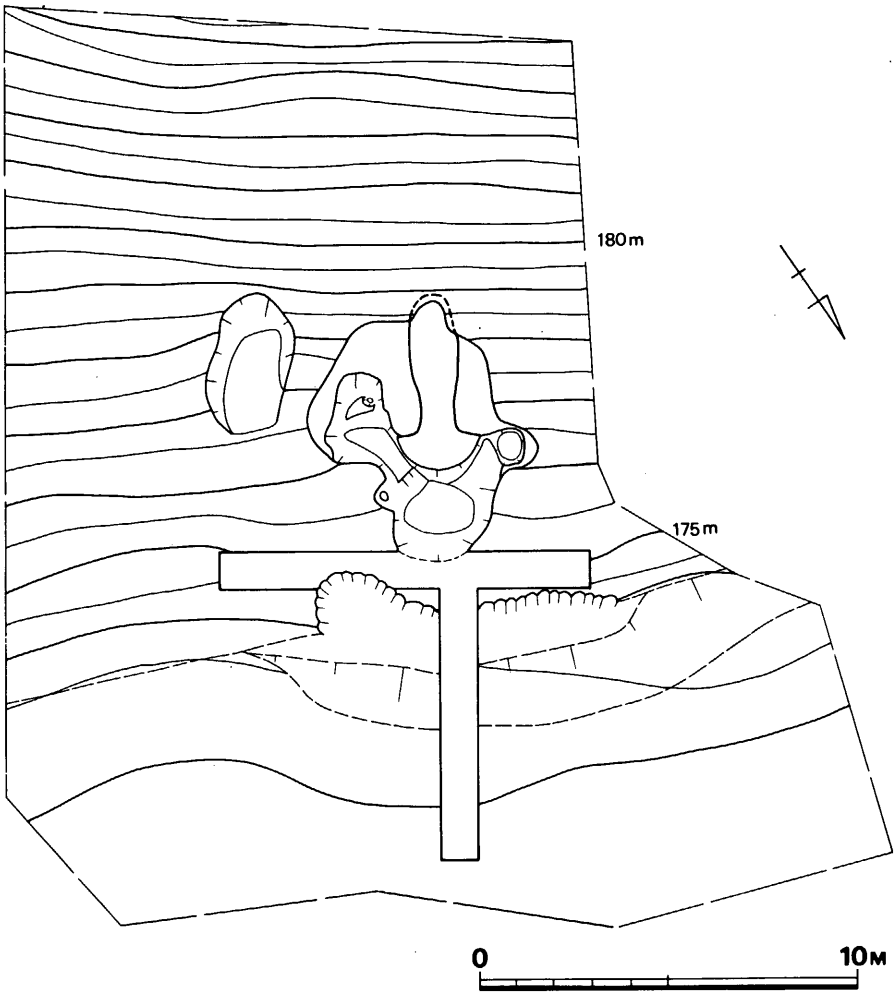
Ⅱ．窯跡の位置と調査概要

窯跡は大野城市大字牛頸2375番地に所在する。牛頸古窯跡群内でも西南隅の最も奥まった地点にある。また、標高の点でも170ｍを越えており、最も高所に位置するものの１つとなろう。牛頸古窯跡は研究史的に小字名によってグルーピングされているが、それによれば石坂窯跡群

第１図　牛頸窯跡群分布図（1/25,000）（遺跡名は４ページ参照）



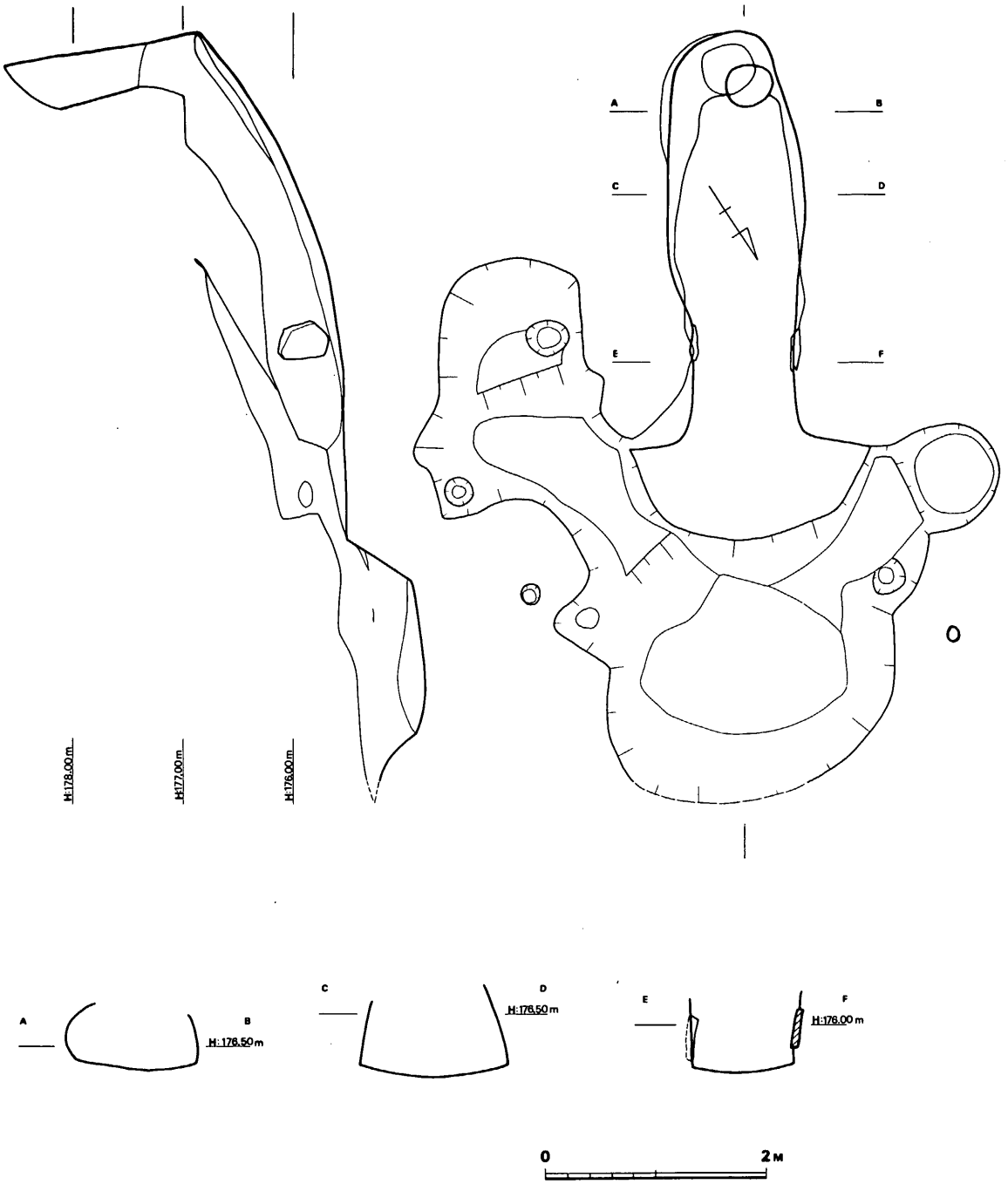
第２図　石坂C1・C2号窯跡位置図（1/5,000）



第3図　C1号窯跡地形実測図（1/200）

第1図遺跡名

(1)大牟田池窯跡	(2)惣利窯跡群	(3)春日平田窯跡群	(4)梅頭窯跡
(5)出口窯跡	(6)神の前窯跡	(7)長浦窯跡	(8)向佐野窯跡群
(9)宮ノ本窯跡群	(10)華無尾窯跡群	(11)野添窯跡群	(12)谷蟹窯跡
(13)大浦窯跡群	(14)平田窯跡群	(15)上平田窯跡群	(16)浦ノ原窯跡群
(17)畑ヶ坂窯跡群	(18)後田窯跡群	(19)月ノ浦窯跡群	(20)胴ノ元窯跡群
(21)東浦窯跡群	(22)中通窯跡群	(23)原窯跡群	(24)ハセムシ窯跡
(25)井手窯跡群	(26)小田浦窯跡群	(27)城の山窯跡群	(28)大谷窯跡群
(29)石坂窯跡群	(30)足洗川窯跡群	(31)道ノ下窯跡群	(32)長者ヶ原窯跡群
(33)笹原窯跡群	(34)牛頸ダム建設予定地関連の窯跡群		



第４図　Ｃ１号窯跡実測図（1/60）

に含まれる。石坂窯跡群は山間部をぬって流れる足洗川の両岸に位置する窯跡群からなるもので、20基以上はあるとされている。ほとんどが7世紀後半から8世紀代の小型の窯跡と思われる。今回調査した2基の窯跡はC地点の1号窯、2号窯としたい。

両窯とも足洗川に面する北西向きの斜面下方にあって、小谷をはさんで並ぶ。西から1号、2号としたが、2号の本体は前述のように保存地帯に含まれたため灰原の調査だけにとどめた。また両窯とも灰原の中央から下方部にかけて、道のために削平されている。窯の下方は足洗川まで狭いながらも平坦地となっているため、トレンチ調査を行なったところ、土師器が数点出土した。作業場等の遺構の存在を想定したが、遺構の検出はできなかった。

Ⅲ．調査の結果

（1）遺構

1.）C1号窯跡

焚口を標高175.5m付近に持ち、全長約4.6mを測る窯跡である。主軸はN－31°－Wを測る。燃焼部と焼成部の境の側壁に石を用いている。

焚口・燃焼部

火を受けた形跡があり、かつ床がほぼ平坦な部分が燃焼部と思われるが、それは大きく凹む所から側石のある部分までの約1.6mが当たる。両側壁が最もせばまった部分と扇型に開く部分からなる。最もせばまった部分で幅0.9m、開いた部分で2.2mを測る。床面は灰原に近い部分が黄褐色を呈する以外、灰白色をして固い。

焼成部

燃焼部の先3mが焼成部と思われる。平面形は胴張り状となって、最大幅は1.25mを測る。床縦断面は弓状の弧を描いて登る。横断面は中央がやや低く壁側が高い形となる。床には製品を安定させるための凹みはなく、粘土塊がいくつか検出された。

奥壁・煙道部

焼成部は弓状に弧を描きながらそのまま奥壁に至り、煙道はその上に垂直方向からやや傾いて立ち上がる。床面から煙道出口までの高さは最高で1.8m、出口の直径は約40cmである。煙道出口は主軸から西にややずれて位置する。

灰原

焚口下に扇状に広がるが、中間を道のために削平されていて本来の規模を正確に知ることはできない。最高幅は15mぐらいを測るものと思われる。灰層は10～30cmと薄く、明確な層位の違いは認められない。

その他

焚口下は直径約2.6m、深さ約50cmの不整円形の凹みがある。中には炭・灰が詰まっている。土器はそれほど多くない。

窯跡本体の向かって左側（東側）には図示したような落ち込みが観察できた。きちんとしたものではないが、完形に近い杯蓋類が出土している。

また、焚口下周囲には主軸をはさんで相対するようにピットがいくつかある。簡単な覆屋風の建物があったと思われる。

2）C2号窯跡

前述のように灰原だけ調査を行なった。調査区内の灰原の広がりは幅、長さともに約10mであった。灰層の厚さは30～40cmと薄い。表土下は単純な灰層と、炭・焼土まじり灰層となるが、それほど明瞭ではない。

（2）遺物

1）窯跡出土須恵器

C1号窯跡出土須恵器、C2号窯跡出土須恵器ともにほぼ同一時期の所産と思われるので一括して記述したい。

出土した器種は蓋、杯、皿、高杯、長頸壺、短頸壺、壺蓋、鉢、甕、円面硯である。

蓋（C1－1～51、C2－1～52）すべてつまみがつくもので身受けのかえりは有しない。天井部の3分の1から2分の1をヘラケズリし、その他をナデるものである。形態を見れば器高の高いもの、扁平なもの、それらの中間的なものがある。口縁部は断面が三角形を呈するもの（C1－3、10等）、折り曲げるが端部の丸くなるもの（C1－1等）、端部が外反するもの（C1－21、25等）がある。またつまみは高く宝珠型に近いもの（C1－5）、扁平に近いが中央部をつまみ上げたもの、扁平又は中央が凹むものがある。また口径は11cm～24cmまであるが、15cm～16cmが最も多い。天井部をヘラケズリするという共通点はあるが、形態、口縁部、つまみの形態、法量のそれぞれの違いに明確な相関関係は見出せない。

杯（C1－52～95、C2－53～102）高台の付かないA類、付くB類に分けられるが、A類はごくわずかである。B類は口径は8cm台から19cm台まである。口径を4捨5入した場合の大きさと個数並びに割合は表1の通りである。14cm前後が圧倒的に多く、11～12cm、18cmがそれに続く。形態的には体部が直線的に斜めに立ち上がって口縁部がやや外側へ張り出すものが多いが、外側へ張り出さずまっすぐ終わるもの、逆に内湾気味のものもある。底部と体部の境は丸味を持つものが多いが、角張るものもある。後者の場合は体部も口縁部まで直線的で、その結果全体

的に非常に角張った感じを持たせる。高台は縁辺近くに付けられるものとやや離れて付けられるものがある。技法的には底部はヘラ切り後粗くナデるだけであるので、上記の形態的差異の諸要素と径高指数（器高÷口径×100）を見た場合、高台の位置と径高指数の間には相関関係が見出されるようである。即ち、高台が縁辺部から離れて付けられるものに径高指数の低いもの（浅い感じのもの、径高指数30以下のものが多い）、逆に高台が縁辺部近くに付けられるものに径高指数の高いもの（深い感じのもの、径高指数が30以上のものが多い）が多い。従って、Ｃ１号窯跡の場合は12cm前後のものから15cm前後のもの、Ｃ２号窯跡の場合は13cm以上のものをそれら２種類に分類してみた。

高台が縁辺部から離れて付けられるものはC1－64～74、C2－86～102、縁辺部近くに付けられるものはC1－75～91、C2－61～85である。

皿（C1－103～122、C2－96～106）高台が付かないＡ類と付くＢ類がある。どちらも外面にヘラケズリを施すものは例外的で、ほとんどがヘラ切り後ナデるものである。Ａ類を見れば特にＣ２号窯跡の場合、ほとんど体部と底部が明瞭で深さも似ている。更に口径が14cm前後のもの（109・110）と19～22cmのもの（111～122）の大小２種類に分けられる。Ｃ１号窯跡の場合はそれより小さいものや両者の中間のものなどが含まれる。また体部と底部の境の不明瞭なもの（105）、浅いもの（100）などが見られる。Ｃ１号窯跡よりＣ２号窯跡出土品が規格化されていると言えよう。またＢ類の場合、高台の付される位置が杯と同様、縁辺部に近いものと遠いものがある。

高杯（C1－107～115、C2－126～131）　高杯には脚の長いものと短いものの２種類見られる。杯部口縁部は垂直に立ち上がって角張って終わる。例外的に角張らないで扁平に近いものがある（C2－128）。

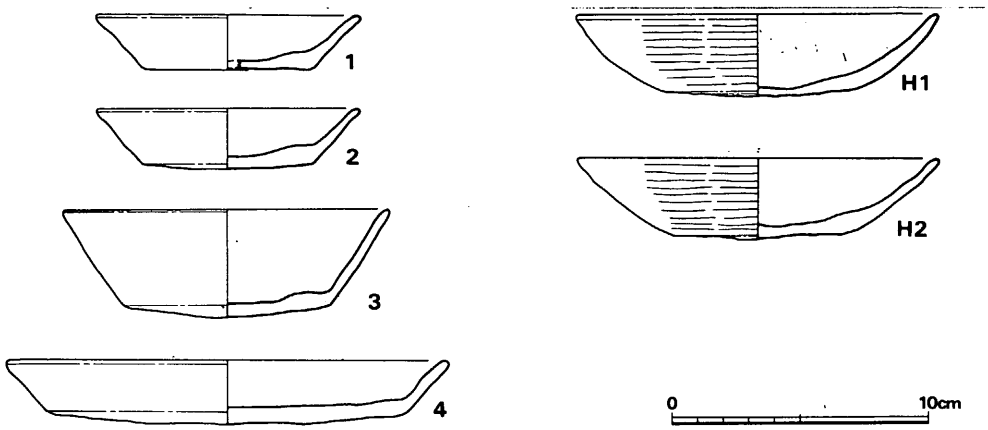
長頸壺（C1－117～119、C2－138～140）　ほとんどが胴部に稜を持つものであるが、Ｃ２号窯跡140は胴部上半部が下半部端よりやや下がって付けられているため、その部分が凸帯状を呈する。脚部は垂直又は外側へややふんばった形で付けられている。口縁部の形状はわからない。胴下半部はヘラケズリを行う。

壺（C1－120・121、C2－137）　直立した短い口縁部と丸味を持って肩の張る胴部を持つものである。

蓋（C1－116）上記壺の蓋と思われるもので、ほぼ直角に折れまがる肩部と、外方へ張り出した端部をもつものである。天井部外面にヘラケズリを行う。

鉢（C1－122）底部を欠くがいわゆる鉄鉢型と言われるものである。内外面ともナデを行う。

鉢（C1－128・129、C2－141・142）平底又はやや上げ底気味の底部と斜め外方へ直線的に伸びる体部から成るものである。口縁端部はやや肥厚しているが平坦に作られている。Ｃ２号窯跡129の底部はヘラケズリされているが、その他はナデで仕上げられている。



第5図　トレンチ出土遺物実測図（1/3）

甕（C1－123・134～136、C2－124～127）数は非常に少ない。口縁端部を折り曲げたように肥厚させるものが特徴的（C1－125・127）である。　127の胴部外面叩きは格子目、内面は同心円文である。

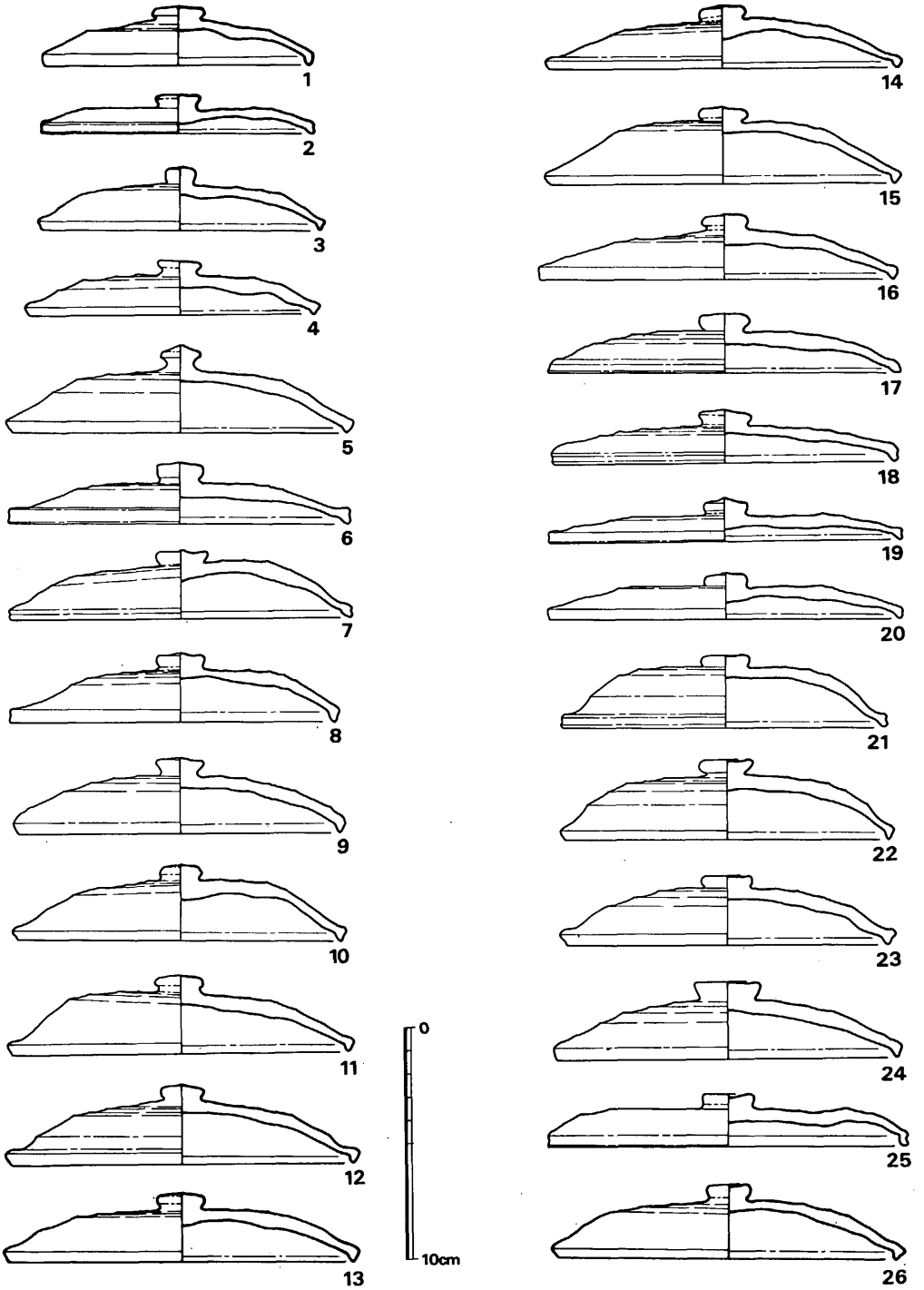
円面硯（C1－123）小破片からの復元である。台付圏足硯で海と陸の区別は明瞭である。外堤はほぼ直立し、陸よりも低い。硯部外側の突帯は不明瞭となっている。圏足には長方形の透し孔を12箇あける。端部は丸く終わる。

2）トレンチ出土遺物（第5図）

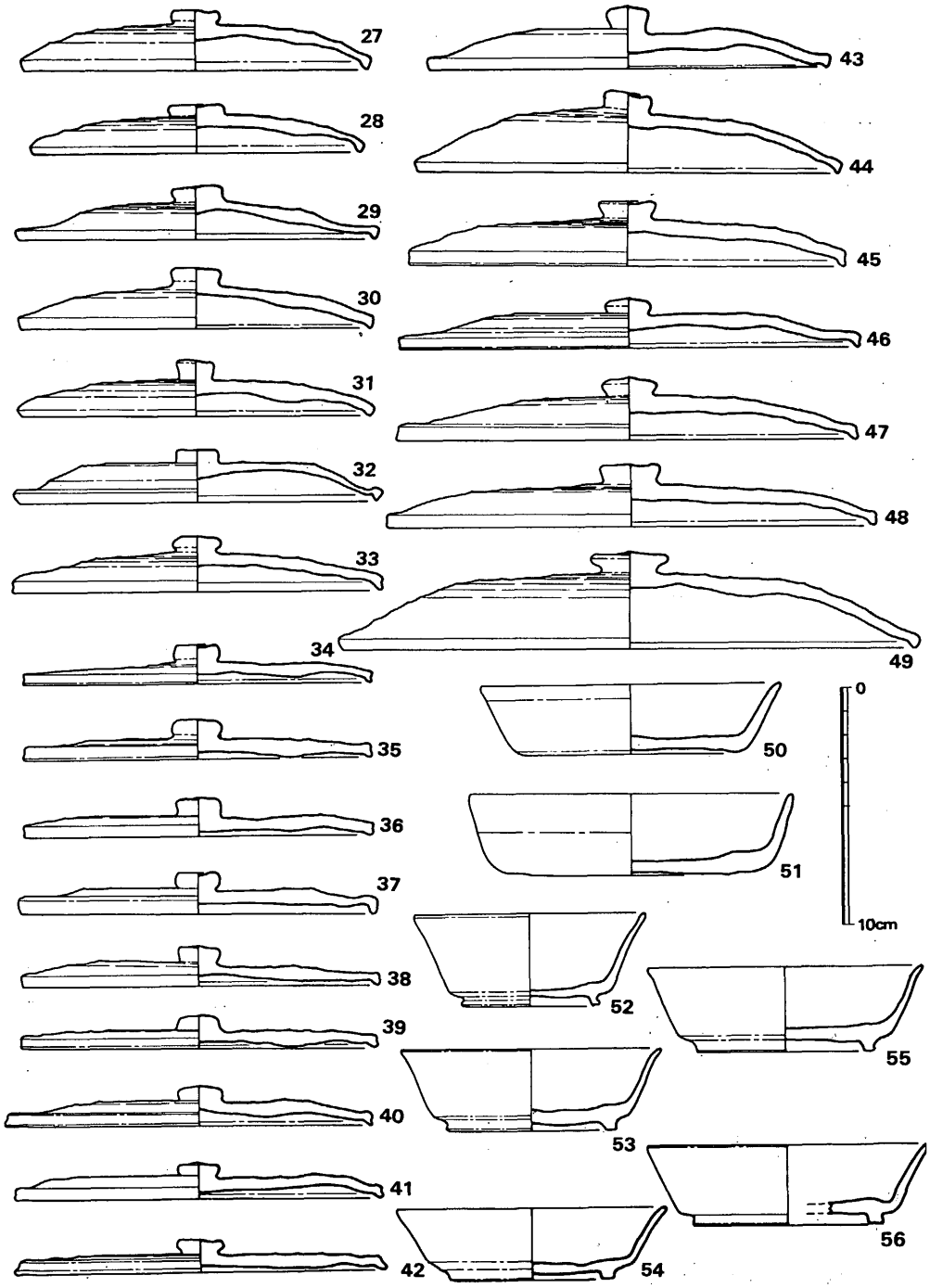
土師器と共に窯跡出土遺物とは異った須恵器が出土している。

須恵器（1～4）　1・2は小型の皿で共に口径は10.5cmである。体部と底部ははっきりしている。体部はナデとヨコナデ、底部外面はヘラ切り後未調整である。4も皿で、調整は1・2と同様である。3は高台の付かない杯であるが、窯跡出土遺物に比べて直線的である。底部はヘラ切り未調整である。1・2・4は窯跡出土遺物とは法量、形態の点で異なっている。

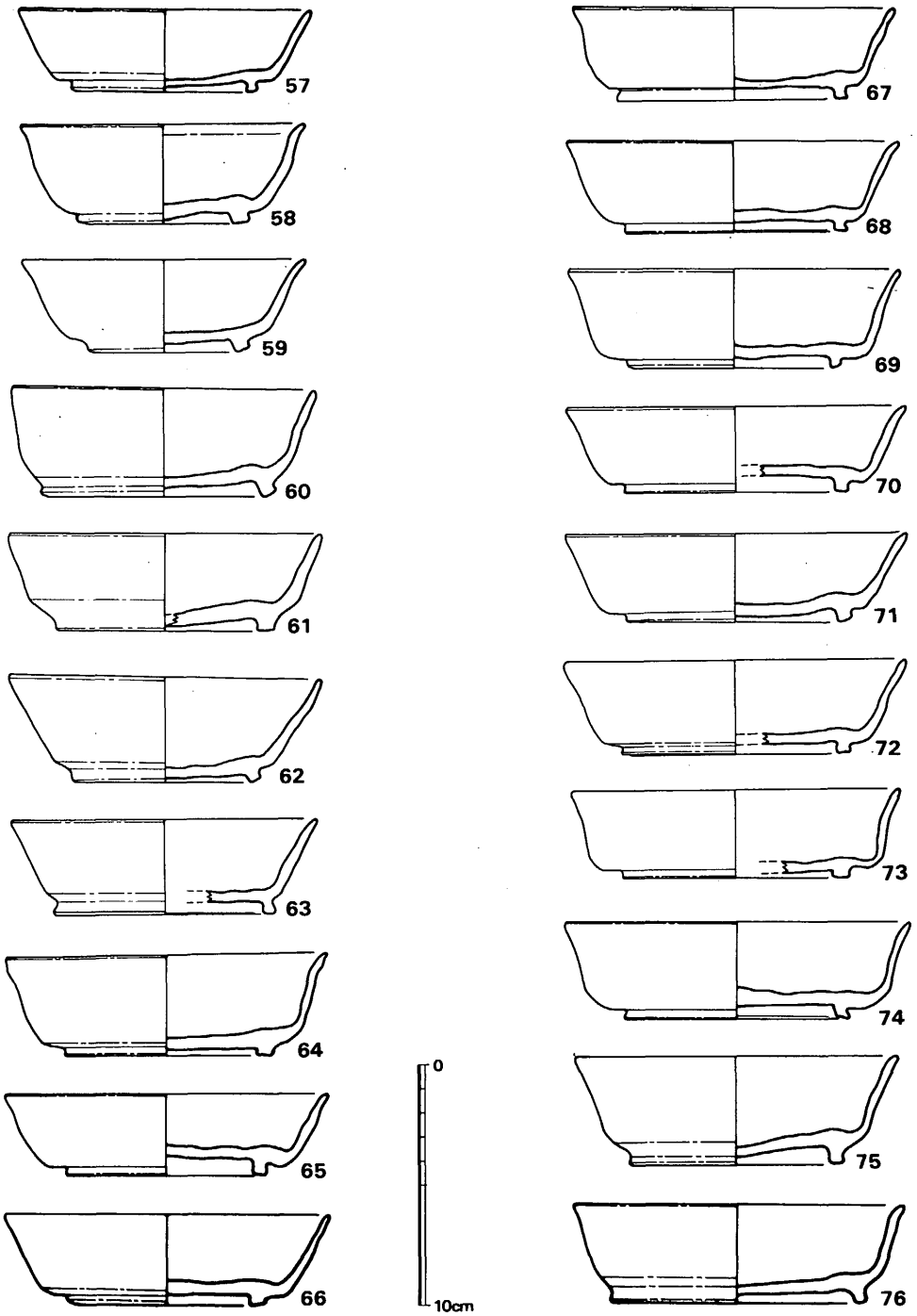
土師器（H1～H2）H1・H2は杯で底部はヘラケズリを行う。体部内面はヨコナデ、外面はミガいている。ヘラミガキは行っているが、これらはヘラケズリ、ヨコナデの状態からロクロを使用して製作されたものと思われる。



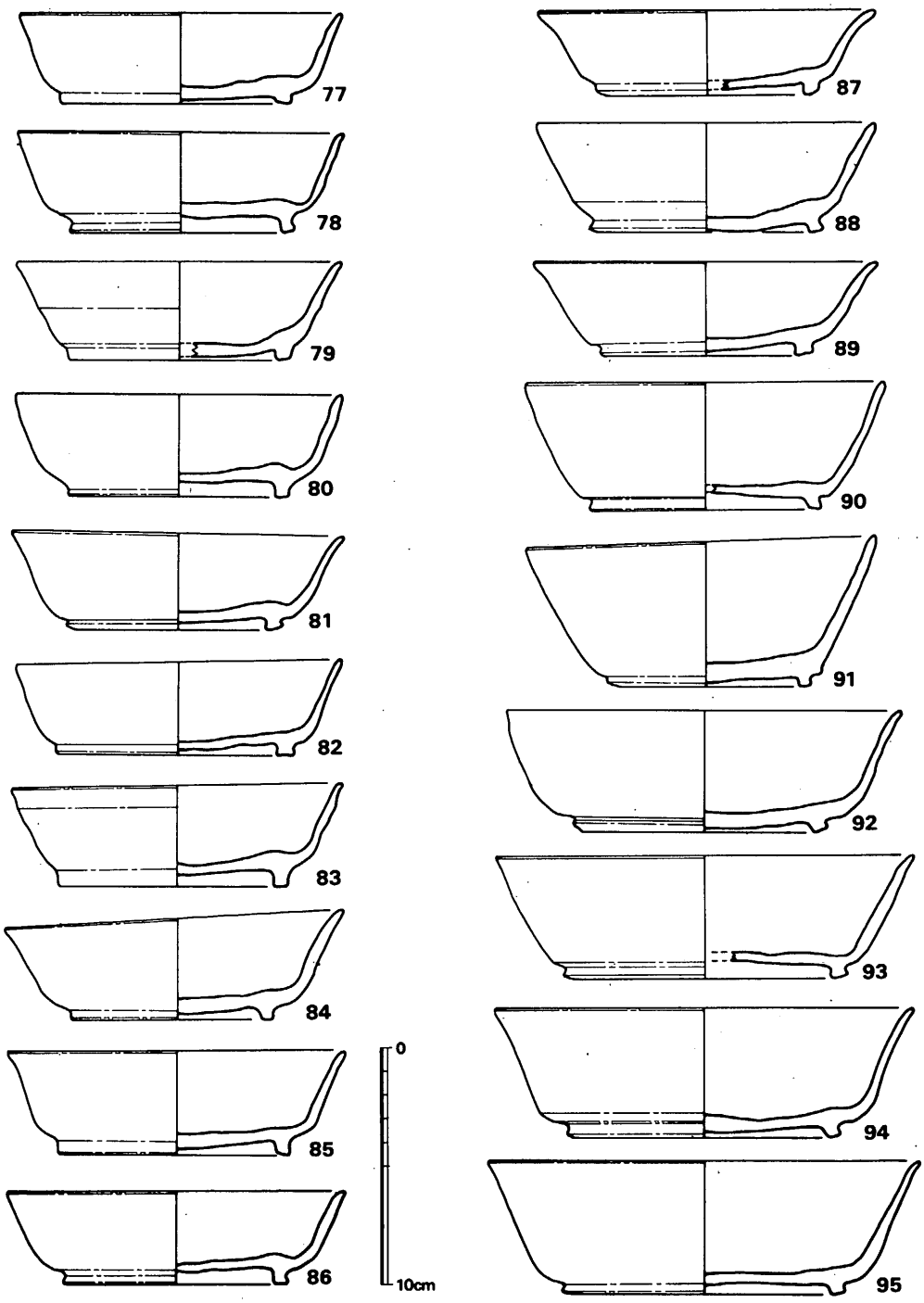
第６図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(1)（1/3）



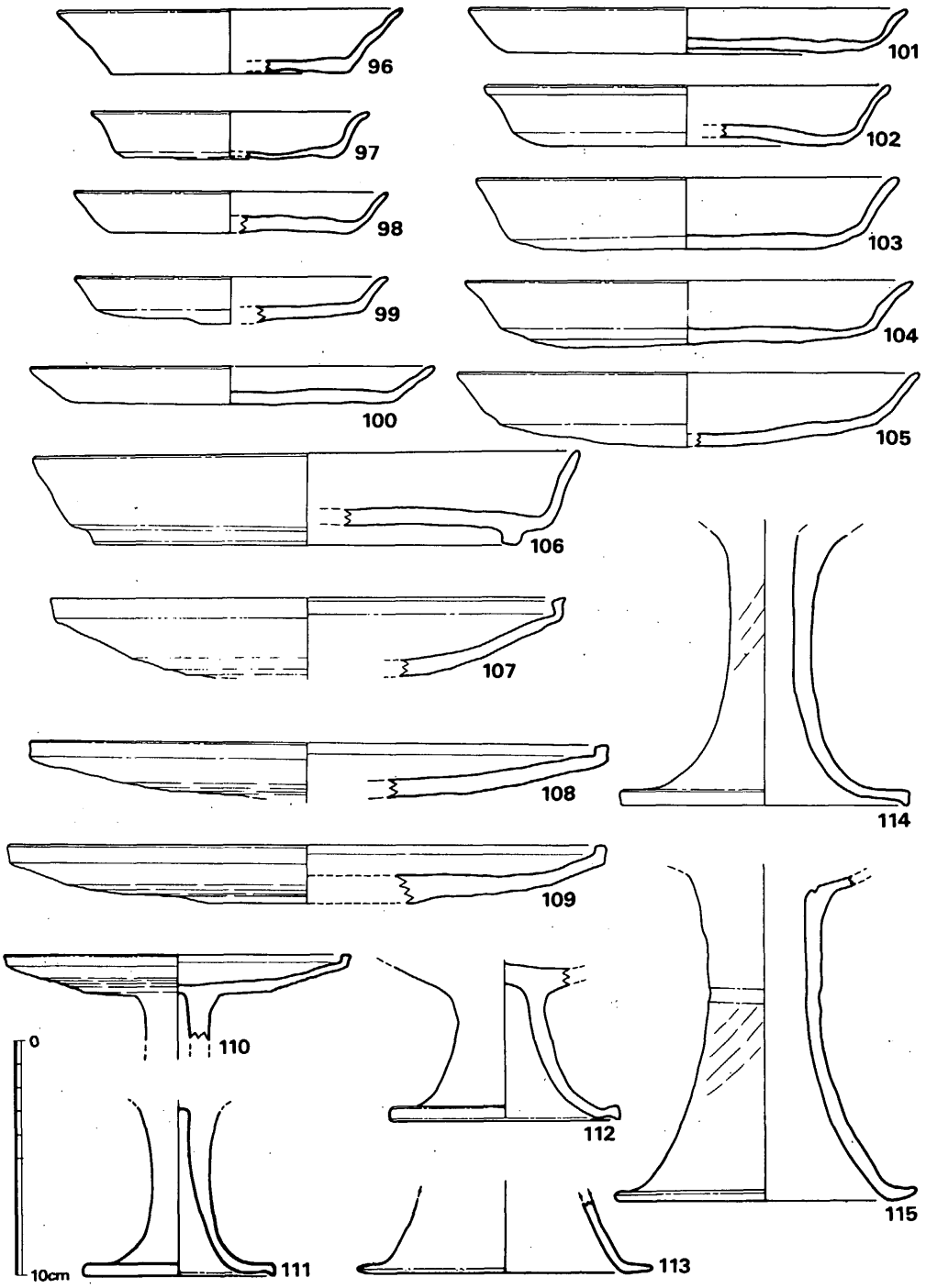
第７図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(2)（1/3）



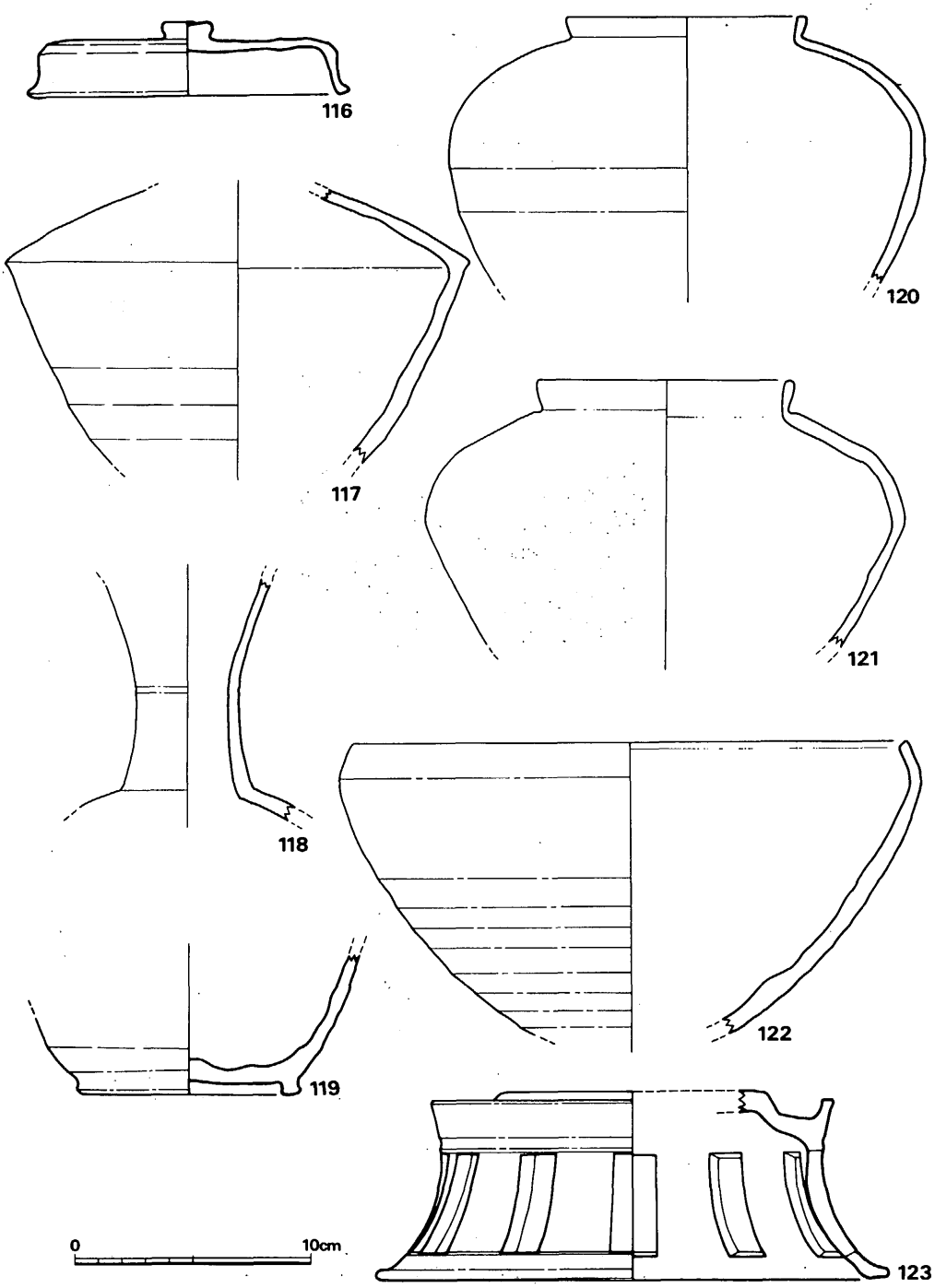
第８図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(3)（1/3）



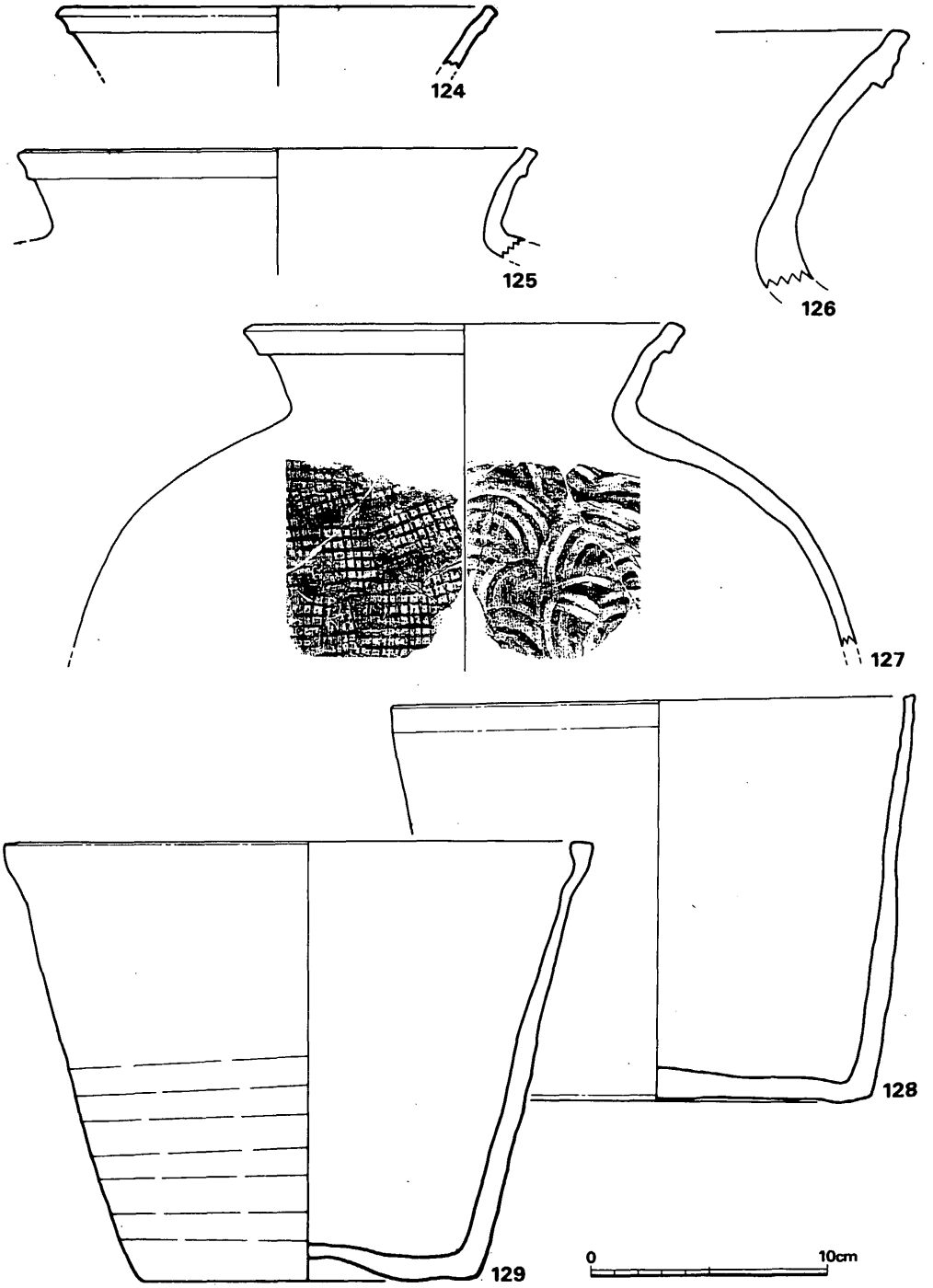
第９図　Ｃ１号窯跡出土遺物実測図(4)（1/3）



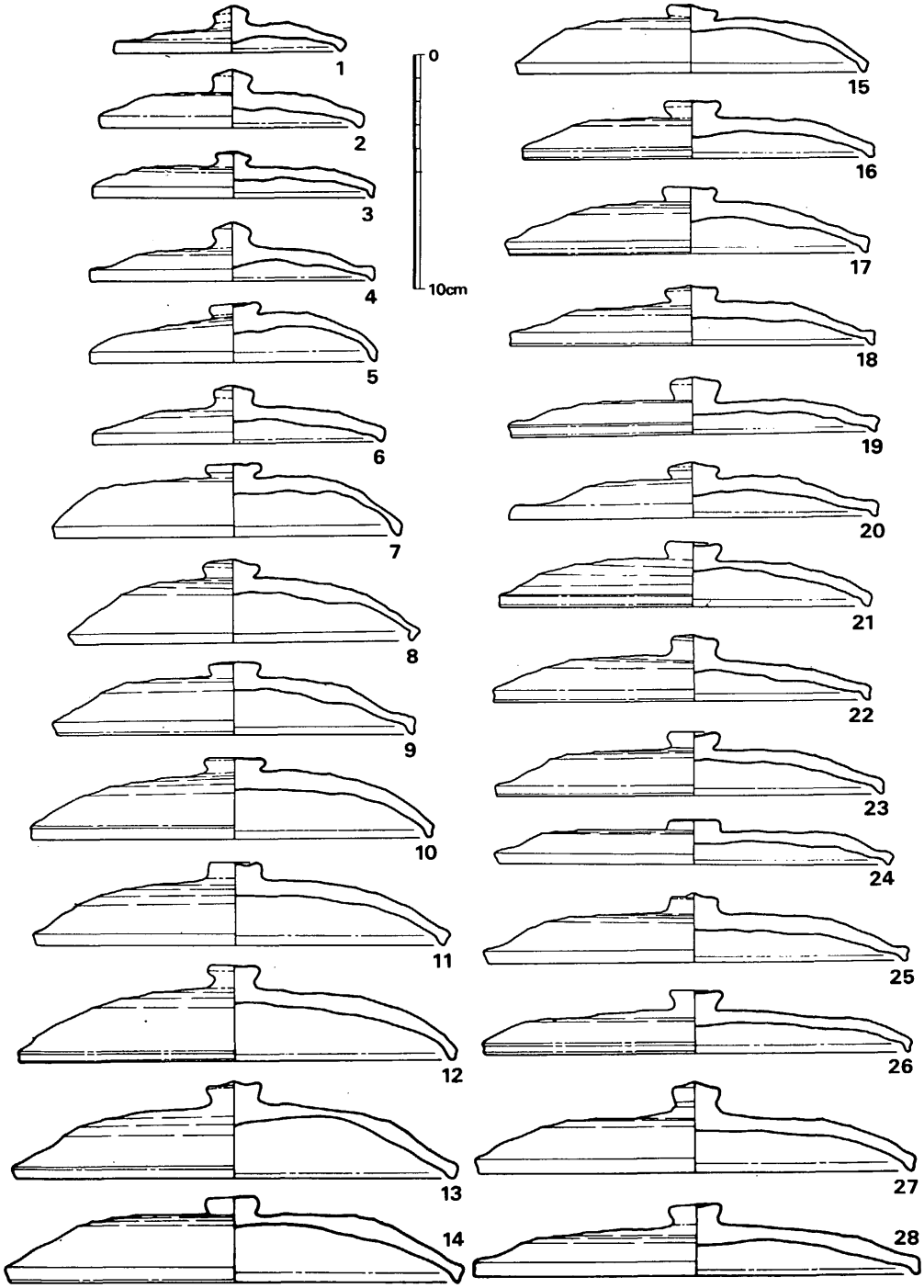
第10図　C1号窯跡出土遺物実測図(5)（1/3）



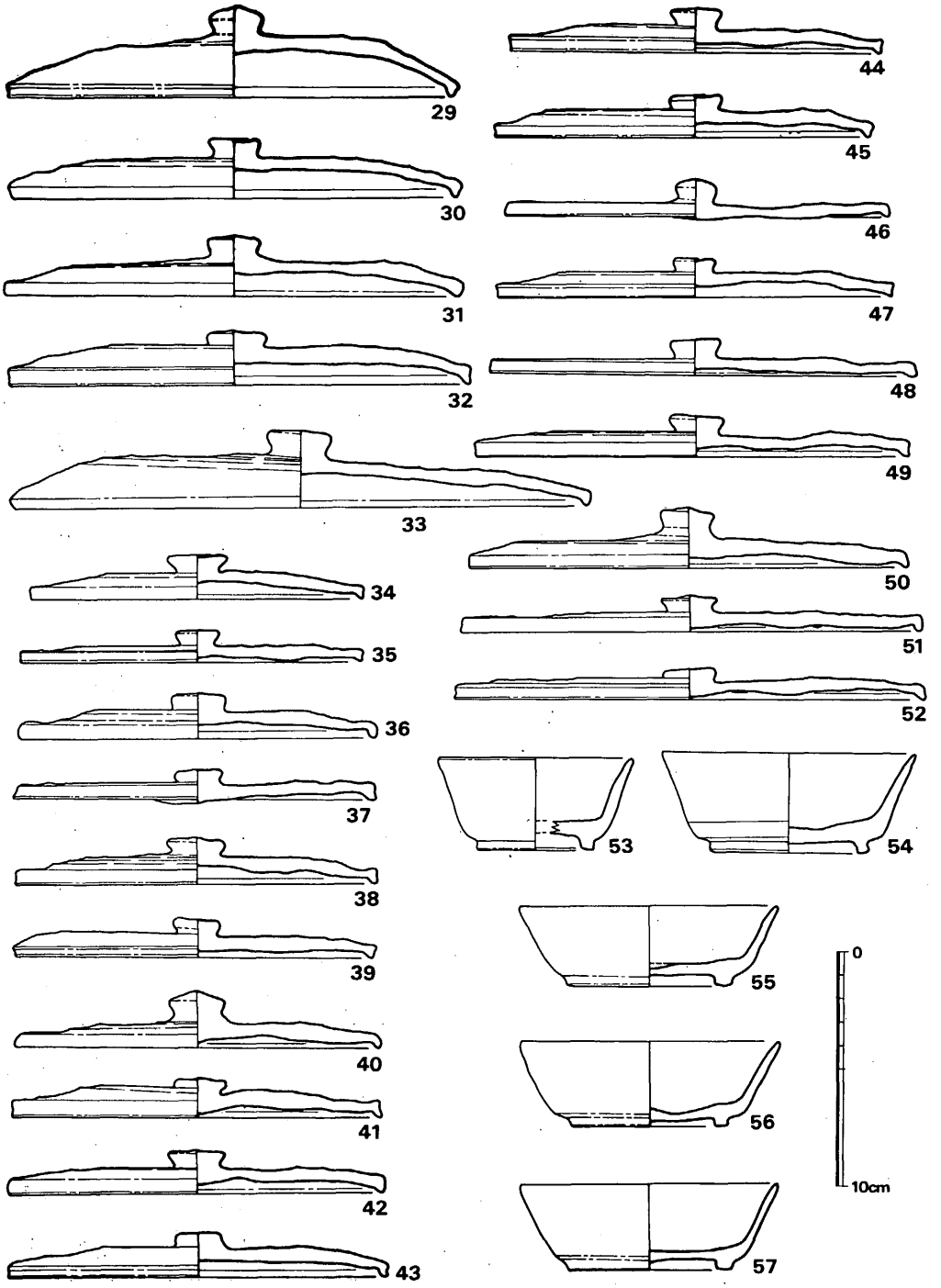
第11図　C1号窯跡出土遺物実測図(6)（1/3）



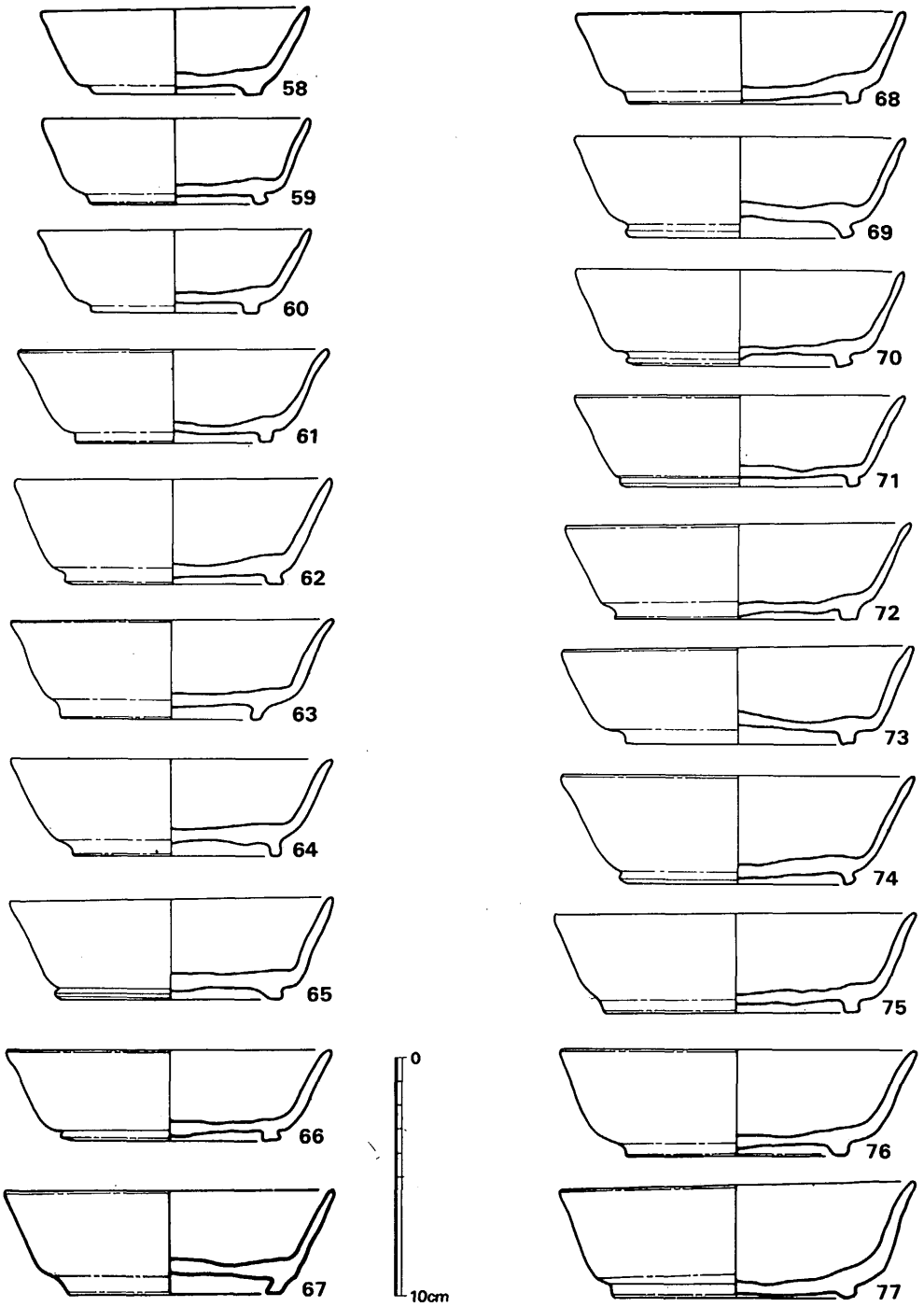
第12図　C1号窯跡出土遺物実測図(7)（1/3）



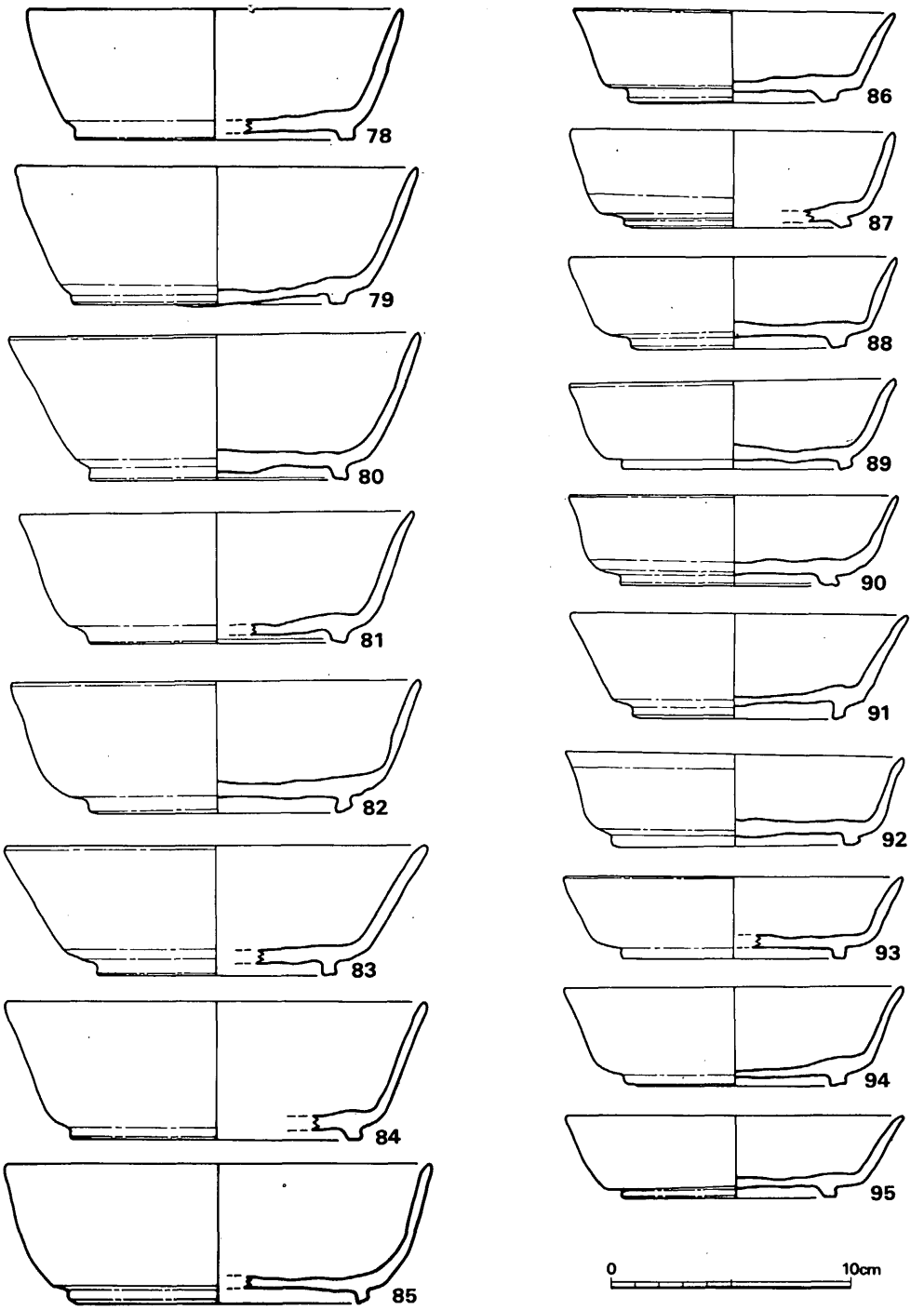
第13図　Ｃ２号窯跡出土遺物実測図(1)（1/3）



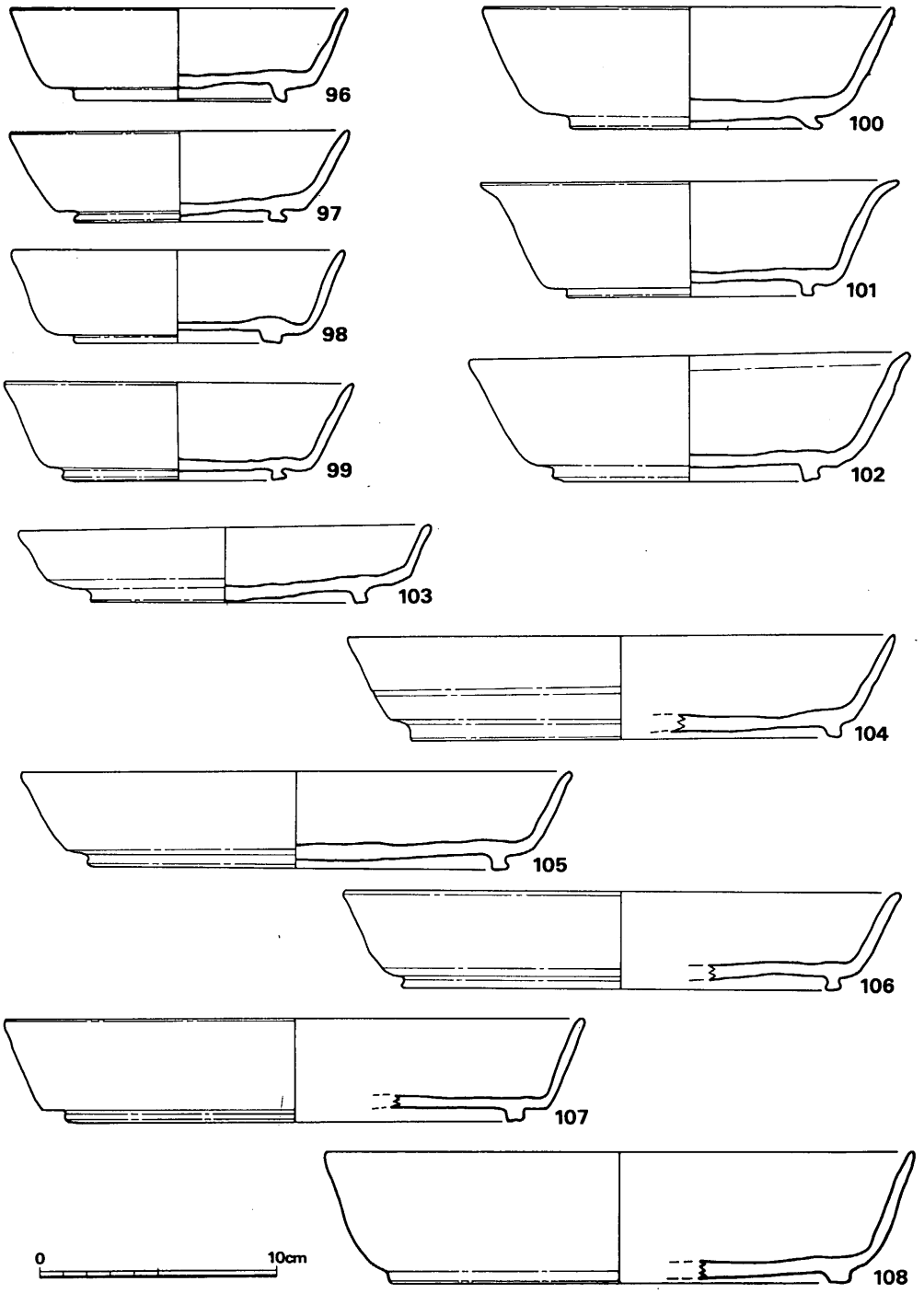
第14図　C２号窯跡出土遺物実測図(2)（1/3）



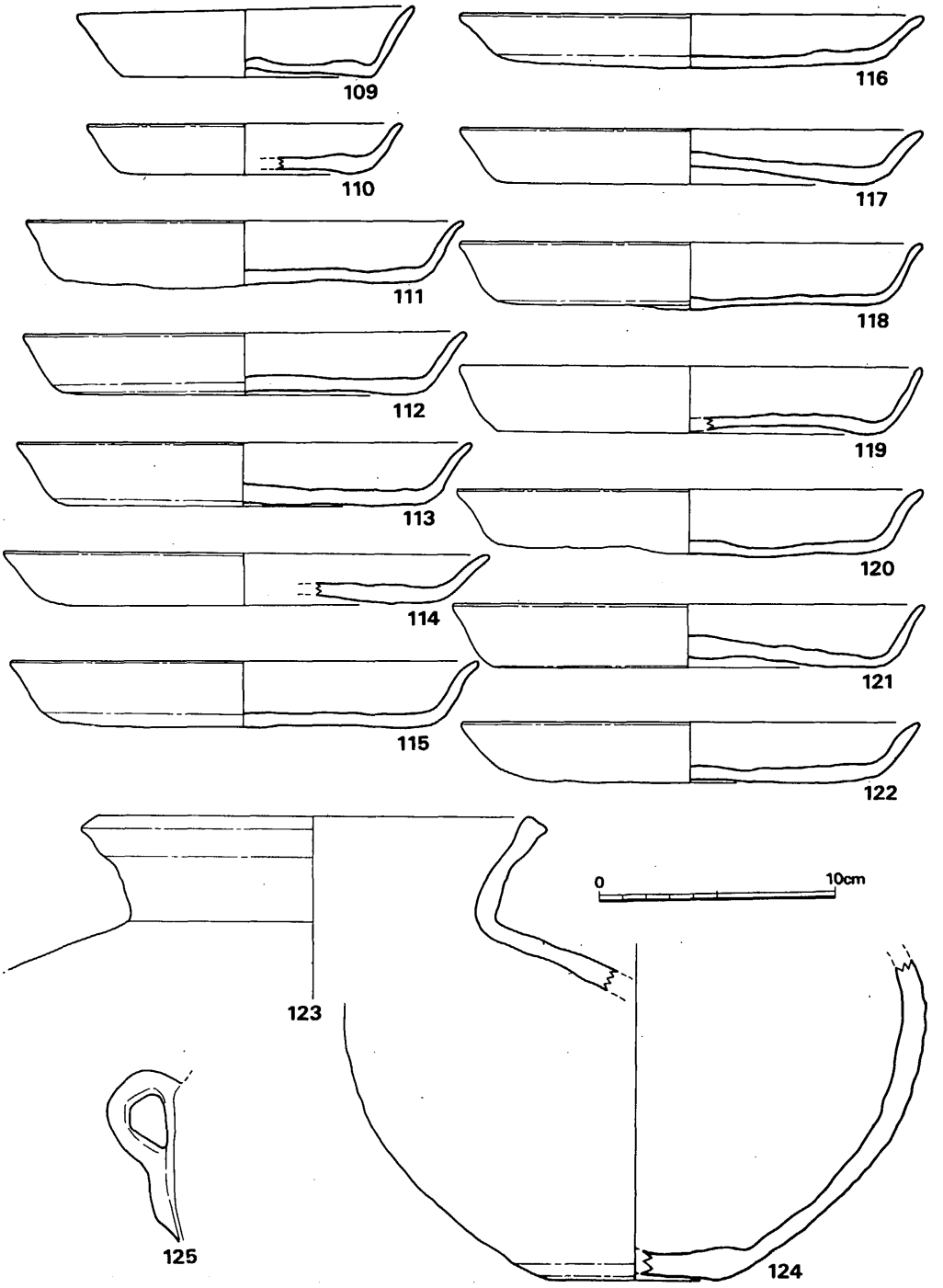
第15図　C２号窯跡出土遺物実測図(3)（1/3）



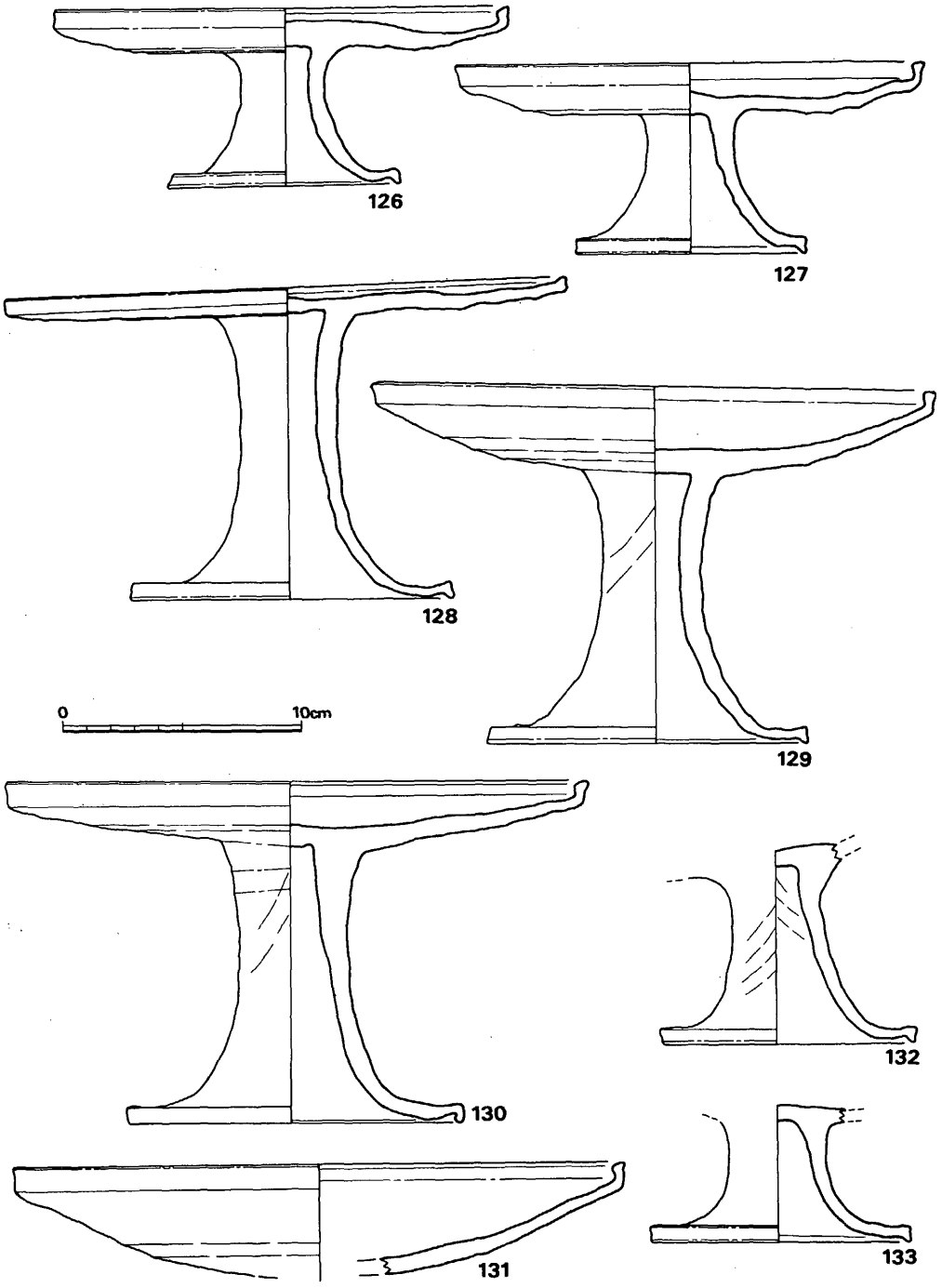
第16図　Ｃ２号窯跡出土遺物実測図(4)（1/3）



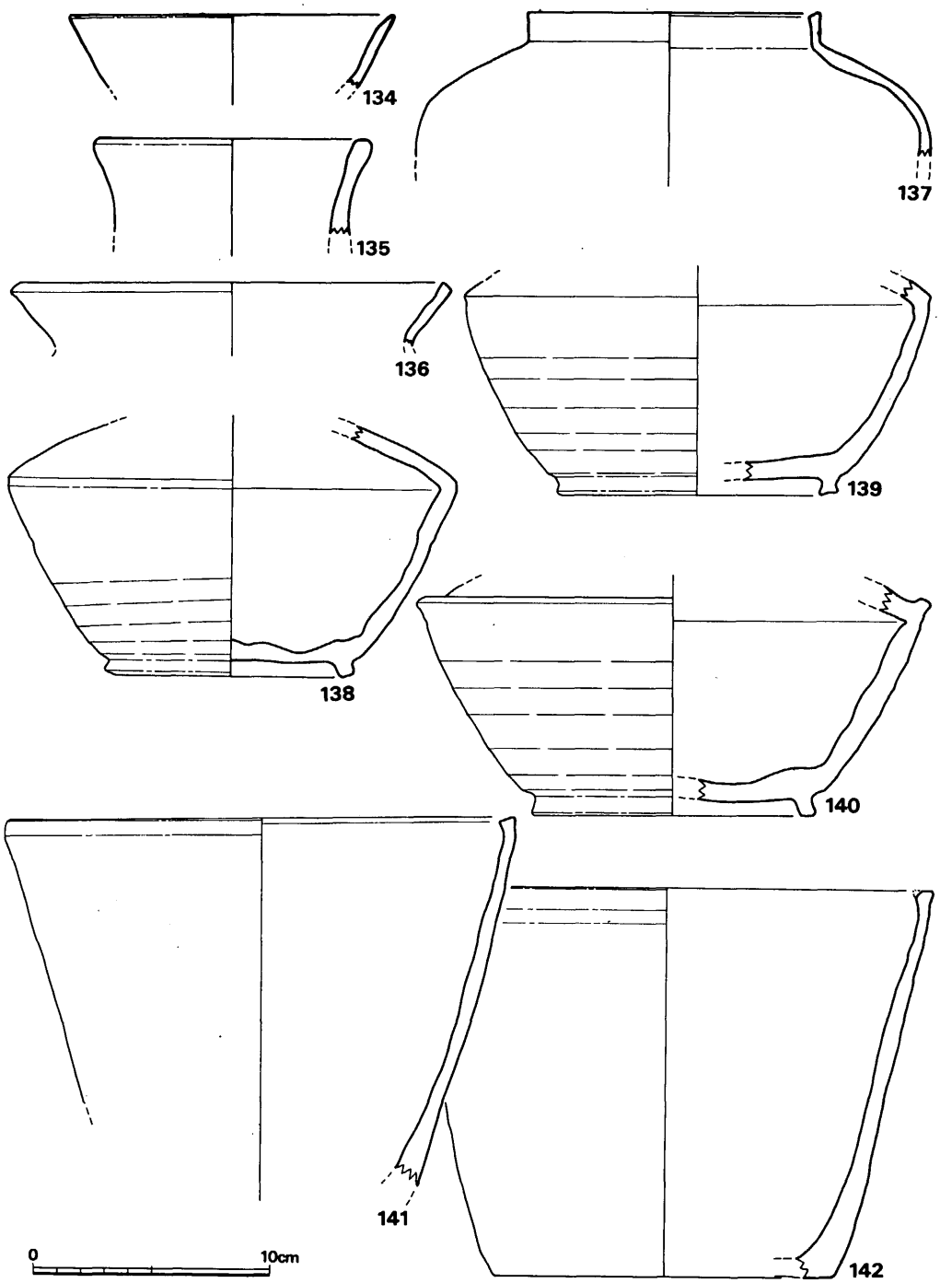
第17図　C２号窯跡出土遺物実測図(5)（1/3）



第18図　C２号窯跡出土遺物実測図(6)（1/3）



第19図　C２号窯跡出土遺物実測図(7)（1/3）



第20図　C２号窯跡出土遺物実測図(8)（1/3）

遺物観察表

法量の（　）は推定値、復元値を示す。

C１号窯跡出土遺物

遺物番号	出土地点	器種	法量(cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高	調整及び特徴	備考
1	灰原	杯蓋	①(11.9) ②(2.6) ③ 2.3 ④ 0.6	天井部外面½回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅘
2	窯跡	〃	①(12) ② 1.7 ③ 2 ④ 0.6	天井部外面½回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅓
3	灰原	〃	①(12.6) ② 2.8 ③ 1.3 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。焼成やや軟質。色調内外面暗灰色。	残存⅘
4	〃	〃	① 13 ② 2.4 ③ 1.9 ④ 0.6	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや良好。色調内外面淡灰色。	残存¾
5	〃	〃	①(15.2) ② 3.85 ③ 1.8 ④ 1	天井部外面½回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅓
6	窯本体東落込み	〃	①(15) ② 2.7 ③ 2.05 ④ 0.9	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成軟質。色調内外面淡灰色。	残存⅔
7	灰原	〃	①(15) ② 3.05 ③ 2.3 ④ 0.7	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡青灰色。	残存⅘
8	〃	〃	① 14.5 ② 3.05 ③ 2.15 ④ 0.7	天井部外面½回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存½
9	〃	〃	①(14.5) ② 3.3 ③ 2.1 ④ 0.8	天井部外面½回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。焼成軟質。色調内外面淡灰色。	残存⅘
10	窯跡	〃	① 14.65 ② 3.35 ③ 1.8 ④ 0.7	天井部外面½回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面暗灰色。	ほぼ完形
11	灰原	〃	① 15.3 ② 3.45 ③ 2.15 ④ 0.7	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。焼成やや軟質。色調内外面暗灰色。	残存⅘
12	窯本体	〃	① 15.5 ② 3.5 ③ 1.9 ④ 0.8	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成軟質。色調内外面淡灰色。	残存¾
13	灰原	〃	①(15.6) ② 3 ③ 2.1 ④ 0.7	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅓
14	窯跡	〃	①(15.6) ② 2.8 ③(2.05) ④ 0.7	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅔
15	灰原	〃	①(15.6) ② 3.4 ③ 2.15 ④ 0.7	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成軟質。色調内外面淡灰色。	残存⅔
16	〃	〃	① 15.7 ② 2.9 ③ 2.05 ④ 0.75	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	完形
17	〃	〃	①(15.4) ② 2.6 ③ 2.2 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存½
18	〃	〃	①(15.2) ② 2.3 ③ 2.35 ④ 0.7	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅓
19	窯跡	〃	① 15.5 ② 1.95 ③ 1.9 ④ 0.8	天井部外面½回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存⅘

遺物番号	出土地点	器種	法量(cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高	調整及び特徴	備考
20	灰原	杯蓋	①(15.5) ② 2.05 ③ 1.9 ④ 0.6	天井部外面⅙回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや粗。焼成良好。色調内外面淡灰色。	残存⅓
21	〃	〃	①(14.3) ② 3.2 ③ 2.9 ④ 0.55	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存¾
22	〃	〃	①(14.6) ② 3.5 ③ 2.4 ④ 0.7	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面¾不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	残存¾
23	〃	〃	①(14.7) ② 3.05 ③ 2.25 ④ 0.55	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡灰色。	残存⅔
24	〃	〃	①(15.2) ② 3.4 ③ 2.9 ④ 0.8	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅔
25	〃	〃	① 15.8 ② 2.3 ③ 2.3 ④ 0.65	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成良好，色調内外面淡灰色。	ほぼ完形
26	窯跡	〃	① 15.45 ② 3.3 ③ 1.9 ④ 0.8	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅘
27	灰原	〃	①(15.1) ② 2.6 ③ 2.1 ④ 0.6	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面淡青灰色	残存⅓
28	〃	〃	①(14.4) ② 2.15 ③ 2.5 ④ 0.65	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡青灰色	残存¼
29	窯跡	〃	① 15.65 ② 2.35 ③ 2.2 ④ 0.75	天井部外面⅓回軽ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成やや不良。色調内外面灰色。	ほぼ完形
30	灰原	〃	①(15.2) ② 2.6 ③ 2.2 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや良好。色調内面淡灰色、外面灰色。	残存⅔
31	焚口直下	〃	①(15.4) ② 2.4 ③ 1.6 ④ 0.95	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質，色調内外面淡茶灰色。	残存¼
32	〃	〃	① 15.9 ② 2.3 ③ 1.85 ④ 0.6	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面¾不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成やや良好　色調内外面青灰色。	残存⅓
33	〃	〃	①(15.9) ② 2.4 ③ 2.1 ④ 0.8	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや粗。焼成良好。色調内外面淡灰色。	残存⅓
34	窯跡	〃	① 15 ② 1.75 ③ 1.95 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内面淡灰色、外面灰色。	残存⅘
35	灰原	〃	①(15) ② 1.7 ③ 2.2 ④ 0.8	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、粗。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅔
36	〃	〃	①(15) ② 1.8 ③ 2 ④ 0.8	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面淡灰色。	残存¾
37	〃	〃	① 15.4 ② 1.8 ③ 2 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	残存½
38	左落込み	〃	① 15.4 ② 1.75 ③ 1.8 ④ 0.85	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅓不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡青灰色。	完形
39	窯跡	〃	①(15.4) ② 1.45 ③ 2.3 ④ 0.7	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅓不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや粗。焼成やや良好。色調内面灰色、外面淡黄灰色。	残存¼
40	灰原	〃	① 15.8 ② 1.7 ③ 2 ④ 0.7	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	完形
41	〃	〃	① 1.8 ② 1.6 ③ 1.8 ④ 0.6	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面¾不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	ほぼ完形
42	〃	〃	①(16) ② 1.4 ③ 2 ④ 0.6	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅓不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面暗灰色。	残存⅓
43	〃	〃	①(17.4) ② 2.7 ③ 1.8 ④ 1	天井部外面回転ナデ。内面¾不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内外面淡灰色。	残存⅕

遺物番号	出土地点	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高	調整及び特徴	備考
44	灰原	杯蓋	①(18.4) ②(3.5) ③ 2 ④ 0.7	天井部外面¾回転ヘラ削り、内面¾不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存⅔
45	〃	〃	①(18.8) ② 2.8 ③ 2.45 ④ 0.8	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅓
46	〃	〃	① 19.8 ② 2.15 ③ 1.95 ④ 0.65	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成堅緻。色調内外面灰色。	残存⅓
47	〃	〃	① 19.8 ② 2.7 ③ 2.35 ④ 0.8	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅔
48	焚口直下	〃	①(21) ② 2.7 ③ 2.6 ④ 0.9	天井部外面½回転ヘラ削り、内面⅓不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。	残存⅚
49	灰原	〃	①(24.9) ② 4.2 ③ 3.35 ④ 1	天井部外面½回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存½
50	〃	杯身	①(13) ② 3	底部外面ヘラ切り未調整、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内面淡灰色、外面淡青灰色。	残存⅕
51	焚口直下	〃	①(14) ② 3.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。焼成軟質。色調内外面淡灰色。	残存⅓
52	灰原	〃	①(10) ② 3.95 ⑤(6) ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅓
53	〃	〃	①(11.1) ② 3.55 ⑤(7.4) ⑥ 0.4	体部下端回転ヘラ削り、底部外面ヘラ切り後ナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内面淡灰色、外面灰色。	残存⅓
54	〃	〃	① 11.6 ② 3.15 ⑤ 7.1 ⑥ 0.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存⅔
55	〃	〃	①(11.8) ② 3.7 ⑤(7.6) ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り未調整、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面淡灰色。	残存⅜
56	〃	〃	①(12) ② 3.5 ⑤(8.2) ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅔
57	〃	〃	①(12.4) ② 3.45 ⑤(7.9) ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内面灰色、外面暗灰色。	残存⅓
58	左落込み	〃	①(12) ② 4.2 ⑤(7.3) ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面淡灰色。	残存⅘
59	灰原	〃	①(12) ② 3.9 ⑤ 6.9 ⑥ 0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅘
60	〃	〃	① 12.8 ② 4.7 ⑤ 9.9 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅘
61	〃	〃	①(13.2) ② 4.1 ⑤(9.2) ⑥ 0.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存¼
62	焚口直下	〃	① 13.2 ② 4.6 ⑤ 7.9 ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面青灰色。	残存¾
63	灰原	〃	①(13) ② 4 ⑤(9.4) ⑥ 0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内面青灰色、外面暗灰色。	残存¼
64	〃	〃	① 13.5 ② 4.35 ⑤ 8.8 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内面淡青灰色、外面暗青灰色。	残存⅚
65	窯跡	〃	① 13.7 ② 3.45 ⑤ 8.5 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り未調整、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや粗。焼成良好。色調内面灰色、外面淡灰色。	残存⅔
66	灰原	〃	① 13.7 ② 3.85 ⑤ 7.4 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り未調整、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内面灰色、外面暗灰色。	ほぼ完形
67	〃	〃	① 13.7 ② 4 ⑤ 9.8 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内面淡青灰色、外面灰色。	残存⅚

遺物番号	出土地点	器種	法量(cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高	調整及び特徴	備考
68	灰原	杯身	① 14 ② 4 ⑤ 9.4 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。 焼成良好。色調内外面灰色。	残存5/6
69	〃	〃	①(14) ② 4.2 ⑤(9) ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り未調整、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや粗。 焼成やや良好。色調内外面淡青灰色。	残存1/3
70	焚口直下	〃	①(14.3) ②(3.65) ⑤(9.4) ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。 焼成堅緻。色調内外面灰色。	残存1/3
71	灰原	〃	① 14.4 ② 3.8 ⑤ 10 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや粗。 焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存5/6
72	窯跡	〃	①(14.4) ② 3.95 ⑤(9.6) ⑥ 0.35	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存1/3
73	灰原	〃	①(13.8) ② 3.7 ⑤(9.4) ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。 焼成良好。色調内面淡青灰色、外面暗灰色。	残存1/4
74	〃	〃	①(14.5) ② 4.1 ⑤ 8.5 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、密。 焼成やや良好。色調内面青灰色、外面暗灰色。	残存2/3
75	〃	〃	①(13.6) ② 4.55 ⑤ 9 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成良好。色調内面淡灰色、外面灰色。	残存1/3
76	〃	〃	①(13.7) ② 4.2 ⑤ 10.7 ⑥ 0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、粗。 焼成軟質。色調内外面灰色。	残存2/3
77	焚口直下 灰原	〃	①(13.8) ② 3.9 ⑤ 9.9 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、粗。 焼成不良。色調内外面淡黄灰色。	残存2/3
78	灰原	〃	① 14 ② 4.4 ⑤ 9.65 ⑥ 0.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。 焼成良好。色調内外面淡灰色。	残存4/5
79	〃	〃	①(14) ② 4.25 ⑤ 9.6 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、粗。 焼成やや軟質。色調内外面淡灰色。	残存1/3
80	〃	〃	①(14) ② 4.4 ⑤ 9.5 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒多く含む、やや密。 焼成良好。色調内外面灰色。	残存1/2
81	〃	〃	① 14.2 ② 4.25 ⑤ 9.3 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。 焼成やや軟質。色調内外面淡青灰色。	残存4/5
82	〃	〃	① 14.1 ② 4.1 ⑤ 10.35 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り未調整、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。 焼成やや良好。色調内面淡青灰色、外面暗灰色。	残存4/5
83	〃	〃	① 14.2 ② 4.45 ⑤ 9.85 ⑥ 0.8	底部外面ヘラ切り未調整、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。 焼成やや軟質。色調内面淡黄灰色、外面淡灰色。	残存3/4
84	〃	〃	①(14.5) ② 4.6 ⑤ 8.6 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存2/3
85	〃	〃	① 14.5 ② 4.5 ⑤ 9.95 ⑥ 0.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや粗。 焼成やや良好。色調内外面灰色。	ほぼ完形
86	〃	〃	①(14.5) ② 4 ⑤ 9.65 ⑥ 0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。 焼成良好。色調内外面灰色。	残存3/4
87	〃	〃	①(14.5) ② 3.6 ⑤ 9.6 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成良好。色調内外面紫褐色。	残存1/4
88	〃	〃	①(14.6) ② 4.7 ⑤ 10 ⑥ 0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。 焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存2/3
89	左落込み	〃	①(14.7) ② 4.1 ⑤ 9.1 ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。 焼成良好。色調内外面淡灰色。	残存3/4
90	灰原	〃	①(15.4) ② 5.5 ⑤ 9.9 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面青灰色。	残存1/3
91	窯本体	〃	① 15 ② 6.35 ⑤ 8.7 ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成やや良好。色調内外面淡緑灰色。	完形

遺物番号	出土地点	器種	法量(cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高 ⑦脚端径 ⑧胴部最大径	調整及び特徴	備考
92	灰原	杯身	① 16.85 ② 5.2 ⑤ 10.85 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅘
93	〃	〃	①(18) ② 5.3 ⑤ 12.2 ⑥ 0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内面灰色、外面暗灰色。	残存⅓
94	〃	〃	①(18) ② 5.55 ⑤ 11.8 ⑥ 0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅓
95	〃	〃	①(18.5) ② 5.7 ⑤(12.1) ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや粗。 焼成軟質。色調内面淡黄灰色、外面灰色。	残存½
96	左落込み	皿	①(15) ② 2.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。 焼成やや軟質。色調内外面淡灰色。	残存¼
97	焚口直下	〃	①(12) ② 2.1	底部外面ヘラ切り未調整。 胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。 色調内外面灰色。	残存⅓
98	灰原	〃	①(13.6) ② 1.8	底部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、密。 焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存¼
99	窯跡	〃	①(13.6) ② 2.05	底部内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。 胎土細粒やや含む、やや粗。焼成良好。 色調内外面灰色。	残存¼
100	左落込み	〃	① 17.5 ② 1.65	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成良好。色調内外面青灰色。	ほぼ完形
101	灰原	〃	①(19) ②(15)	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅔
102	窯跡	〃	①(17.6) ② 2.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、粗。 焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存¼
103	灰原	〃	① 18.25 ② 3.15	底部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成軟質。色調内外面淡茶灰色。	ほぼ完形
104	灰原 焚口直下	〃	①(19.4) ② 2.8	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成良好。色調内外面淡灰色。	残存¾
105	窯本体	〃	①(20) ② 3.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや密。 焼成やや良好。色調内外面淡灰色。	残存½
106	〃	高台付皿	① 23.6 ② 4.2 ⑤ 18.4 ⑥ 0.6	底部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存¾
107	灰原	高杯	①(22.4)	杯体部下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成良好。色調内外面灰色。	残存杯部⅕ 脚部欠損
108	〃	〃	①(24)	杯体部下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、粗。 焼成不良。色調内外面淡黄灰色。	残存杯部⅓ 脚部欠損
109	焚口直下	〃	①(26)	杯体部下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面淡灰色。	残存杯部⅓ 脚部欠損
110	灰原	〃	①(15)	杯体部下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、密。 焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存杯部⅓ 脚部欠損
111	〃	〃	⑦ 8.4	残存部内外面回転ナデ。 胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。 色調内外面暗灰色。	残存杯部⅔ 脚部欠損
112	〃	〃	⑦ 10	残存部内外面回転ナデ。 胎土細粒やや含む、粗。焼成やや軟質。 色調内外面淡灰色。	残存脚部¾ 杯部欠損
113	〃	〃	⑦(12.8)	残存部内外面回転ナデ。 胎土砂粒わずかに含む、やや粗。焼成良好。 色調内外面灰色。	少片
114	〃	〃	⑦ 12.5	残存部内外面回転ナデ。 胎土細粒わずかに含む、やや粗。焼成良好。 色調内外面灰色。	残存脚部⅓ 杯部欠損
115	〃	〃	⑦ 13	残存部内外面回転ナデ。 胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。 色調内外面淡茶灰色。	杯部欠損

遺物番号	出土地点	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高 ⑦脚端径 ⑧胴部最大径	調整及び特徴	備考
116	灰原 焚口直下	蓋	①(13.9) ② 3.2 ③ 2.2 ④ 0.7	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内面淡灰色、外面暗青灰色。	残存⅓
117	灰原	長頸壺		残存部外面下端回転ヘラ削り。他は回転ナデ。 胎土細粒わずかに含む、やや粗。焼成良好。 色調内外面灰色。	少片
118	〃	〃		残存部内外面回転ナデ。 胎土細粒わずかに含む、やや密。焼成良好。 色調内外面淡紫褐色。	少片
119	〃	〃	⑤ 9.7 ⑥ 0.75	残存部外面回転ヘラ削り。他は回転ナデ。 胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。 色調内外面暗灰色。	少片
120	〃	短頸壺	①(11.5) ⑧(20.4)	残存部内外面回転ナデ。 胎土砂粒わずかに含む、やや粗。焼成良好。 色調内外面暗灰色。	残存¼
121	東落込み	〃	①(12.4) ⑧(22)	残存部内面下端不定方向のナデ。他は回転ナデ。 胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成やや軟質。 色調内面淡灰色、外面灰色。	少片
122	灰原	鉄鉢	①(24)	残存部内面下端不定方向のナデ、外面⅔回転ヘラ削り。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅓
123	〃	円面硯	②(8.1) 硯部外堤径(17.4) 台端部径(22)	残存部内外面ナデ。	少片
124	焚口直下	甕	①(19)	残存部内外面回転ナデ。 胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。 色調内面暗灰色、外面淡灰色。	残存口縁部 少片
125	灰原	〃	①(22.4)	残存部内外面回転ナデ。 胎土砂粒多く含む、密。焼成良好。 色調内外面暗灰色。	残存口縁部 少片
126	〃	〃		残存部内面下端粗いナデ。他は回転ナデ。 胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。 色調内面灰色、外面暗灰色。	少片
127	窯本体	〃	①(19)	口縁部内外回転ナデ。胴部外面叩き格子目。 内面同心円文。胎土砂粒やや含む、粗。 焼成やや軟質。色調内面灰色、外面淡灰色。	少片
128	灰原	鉢	① 22.5 ② 17.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 外面下端不定方向のナデ。他は回転ナデ。 胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。 色調内外面灰色。	残存½
129	〃	〃	①(25.3) ② 18.9	底部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。 内面一部タテナデ、外面下端回転ヘラ削り。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅔

Ｃ２号窯跡出土遺物

遺物番号	出土地点	器種	法量(cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高	調整及び特徴	備考
1	灰原	杯蓋	① 10.1 ② 2.05 ③ 1.5 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面一部不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	残存¾
2	〃	〃	①(11.5) ② 2.5 ③ 1.75 ④ 1	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存½
3	〃	〃	① 12.3 ② 2.05 ③ 1.5 ④ 0.6	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面淡黄灰色。	ほぼ完形
4	〃	〃	① 12.4 ② 2.55 ③ 1.65 ④ 10.05	天井部外面⅓回転ヘラ削り。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。焼成堅緻。色調内外面灰色。	残存⅓
5	〃	〃	① 12.5 ② 2.5 ③ 2.25 ④ 0.5	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存¾
6	〃	〃	① 12.75 ② 2.5 ③ 1.75 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内外面淡黄灰色。	完形
7	〃	〃	① 15.15 ② 3.2 ③ 2.5 ④ 0.65	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅔
8	〃	〃	①(15.2) ② 3.6 ③ 2.5 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅘
9	〃	〃	① 15.7 ② 3.2 ③ 2.3 ④ 0.65	天井部外面½回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅚
10	〃	〃	① 17.45 ② 3.55 ③ 2.7 ④ 0.6	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存¾
11	〃	〃	① 18 ② 3.7 ③ 2.4 ④ 0.75	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅘
12	〃	〃	① 19 ② 4.2 ③ 2.35 ④ 1	天井部外面½回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存½
13	〃	〃	① 19.25 ② 4.2 ③ 2.35 ④ 1.1	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅘
14	〃	〃	①(20) ② 3.7 ③ 2.4 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、粗。焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存½
15	〃	〃	①(15.2) ② 3 ③ 2.2 ④ 0.65	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡灰色。	残存⅔
16	〃	〃	① 15.3 ② 2.5 ③ 2.5 ④ 0.7	天井部外面½回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	ほぼ完形
17	〃	〃	① 15.7 ② 2.9 ③ 2.35 ④ 0.65	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存½
18	〃	〃	① 15.8 ② 2.7 ③ 2.3 ④ 0.75	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅘
19	〃	〃	①(16) ② 2.5 ③ 2.2 ④ 1.15	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅔
20	〃	〃	① 16 ② 2.4 ③ 2.3 ④ 0.75	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存¾
21	〃	〃	① 16.1 ② 2.85 ③ 2.5 ④ 0.75	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面中央不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	ほぼ完形
22	〃	〃	① 16.3 ② 2.85 ③ 2.1 ④ 1	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成軟質。色調内外面明黄灰色。	残存⅔

遺物番号	出土地点	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高	調整及び特徴	備考
23	灰原	杯蓋	① 16.8 ② 2.75 ③ 2.3 ④ 0.75	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存⅔
24	〃	〃	①(17.2) ② 1.95 ③(2.3) ④ 0.55	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面⅓不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅓
25	〃	〃	① 18.3 ② 3 ③ 2.4 ④ 0.9	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅘
26	〃	〃	① 18.5 ② 2.75 ③ 2.3 ④ 0.85	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面¾不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅓
27	〃	〃	①(19) ②(3.95) ③ 2.1 ④ 1.3	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面淡緑灰色。	残存⅓
28	〃	〃	①(19.3) ② 3.1 ③(2.3) ④ 0.9	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅓
29	〃	〃	① 19.5 ② 3.95 ③ 2.35 ④ 1.25	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存¾
30	〃	〃	① 19.7 ② 2.6 ③ 2.2 ④ 0.85	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、密。焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存⅓
31	〃	〃	① 19.8 ② 2.75 ③ 2.3 ④ 0.95	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存½
32	〃	〃	①(20) ② 2.4 ③ 2.4 ④ 0.65	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面くすんだ淡灰色。	残存½
33	〃	〃	① 24.6 ② 3.4 ③ 2.8 ④ 1.2	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	ほぼ完形
34	〃	〃	①(14.5) ② 1.85 ③ 2.6 ④ 0.75	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存½
35	〃	〃	① 14.8 ② 1.45 ③ 1.95 ④ 0.65	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面暗黄灰色。	ほぼ完形
36	〃	〃	① 15.6 ② 2 ③ 2.35 ④ 0.75	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面¾不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、粗。焼成軟質。色調内外面灰色。	残存⅘
37	〃	〃	① 15.65 ② 1.5 ③ 2.05 ④ 0.65	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅔
38	〃	〃	① 15.6 ② 2.05 ③ 2.55 ④ 0.75	天井部外面½回転ヘラ削り、内面¾不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、密。焼成良好。色調内面灰色、外面青灰色。	残存⅔
39	〃	〃	① 15.7 ② 1.7 ③ 2.05 ④ 0.7	天井部外面⅔回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	ほぼ完形
40	〃	〃	① 15.85 ② 2.55 ③ 2.4 ④ 1.35	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅓不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存½
41	〃	〃	① 16 ② 1.8 ③ 2.25 ④ 0.7	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存½
42	〃	〃	①(16) ② 1.9 ③ 2.5 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存¼
43	〃	〃	①(16) ② 1.95 ③ 2.3 ④ 0.6	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅔
44	〃	〃	① 16.2 ② 1.9 ③ 2.2 ④ 0.8	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面½不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存½
45	〃	〃	① 16.4 ② 1.85 ③ 2.3 ④ 2	天井部外面¼回転ヘラ削り、他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面淡黄灰色。	ほぼ完形
46	〃	〃	①(16.7) ② 1.75 ③(1.8) ④ 1.05	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面淡灰色。	残存⅔

遺物番号	出土地点	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高	調整及び特徴	備考
47	灰原	杯蓋	①(17.2) ② 1.7 ③ 1.85 ④ 0.6	天井部外面一部ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅓
48	〃	〃	① 18.5 ② 1.7 ③ 2.2 ④ 0.85	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存⅔
49	〃	〃	①(18.8) ② 1.8 ③ 2.4 ④ 0.85	天井部外面⅓回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅔
50	〃	〃	① 19 ② 2.6 ③ 2.35 ④ 1.25	天井部外面½回転ヘラ削り、内面¾不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅔
51	〃	〃	① 19.9 ② 1.5 ③ 2.4 ④ 0.7	天井部外面¼回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅓
52	〃	〃	①(20.4) ② 1.4 ③ 2.3 ④ 0.7	天井部外面½回転ヘラ削り、内面⅔不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅔
53	〃	杯身	①(8.4) ② 4 ⑤(5.1) ⑥ 0.4	底部外面ナデ。他は回転ナデ。 胎土砂粒わずかに含む、粗。焼成不良。 色調内外面淡黄灰色。	残存½
54	〃	〃	① 11 ② 4.3 ⑤ 6.95 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後粗いナデ、他は回転ナデ。 胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成良好。 色調内外面淡黄灰色。	完形
55	〃	〃	① 11.2 ② 3.5 ⑤ 7.2 ⑥ 0.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。 焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存¾
56	〃	〃	① 11.2 ② 3.7 ⑤ 6.8 ⑥ 0.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅘
57	〃	〃	①(11.2) ② 3.75 ⑤ 7.1 ⑥ 0.25	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存⅔
58	〃	〃	① 11.4 ② 3.7 ⑤ 7.3 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内面灰色、外面灰色(一部青灰色)	完形
59	〃	〃	①(11.4) ② 3.7 ⑤ 7.55 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや密。 焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存½
60	〃	〃	① 11.5 ② 3.55 ⑤ 7.1 ⑥ 0.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅔
61	〃	〃	①(13.2) ② 3.95 ⑤ 8.4 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅔
62	〃	〃	① 13.45 ② 4.5 ⑤ 9.25 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅚
63	〃	〃	① 13.6 ② 4.25 ⑤ 8.5 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成良好。色調内外面暗灰色。	完形
64	〃	〃	① 13.7 ② 4.15 ⑤ 8.9 ⑥ 0.65	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。 焼成やや良好。色調内外面暗灰色。	残存⅚
65	〃	〃	① 13.7 ② 4.3 ⑤ 9.7 ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅘
66	〃	〃	① 13.85 ② 3.85 ⑤ 9.3 ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面灰色。	完形
67	〃	〃	① 14 ② 4.4 ⑤ 9 ⑥ 0.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成良好。色調内外面暗灰色。	完形
68	〃	〃	①(14) ② 3.95 ⑤ 9.9 ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。 焼成やや良好。色調内外面淡灰色。	残存⅔
69	〃	〃	①(14) ② 4.3 ⑤(9.6) ⑥ 0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成やや良好。色調内外面暗灰色。	残存¾
70	〃	〃	①(14) ② 4.1 ⑤(9.6) ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。 焼成良好。色調内外面淡灰色。	残存½

遺物番号	出土地点	器種	法量 (cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高	調整及び特徴	備考
71	灰原	杯身	①(14) ② 3.85 ⑤ 10.2 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内面灰色、外面淡青灰色。	残存¼
72	〃	〃	① 14.7 ② 4.15 ⑤ 10.3 ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅘
73	〃	〃	① 14.85 ② 4.2 ⑤ 9.7 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅔
74	〃	〃	①(15) ② 4.6 ⑤(10) ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや密。焼成やや良好。色調内面灰色、外面淡灰色(一部暗灰色)。	残存½
75	〃	〃	① 15.4 ② 4.2 ⑤ 10.7 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	完形
76	〃	〃	① 15.5 ② 4.55 ⑤ 9.4 ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内面灰色、外面淡茶灰色。	残存¾
77	〃	〃	① 15.5 ② 5 ⑤ 10.3 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	完形
78	〃	〃	①(16) ② 5.6 ⑤(12) ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。	残存¼
79	〃	〃	①(17.2) ② 5.9 ⑤ 11.6 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。	残存⅘
80	〃	〃	① 17.4 ② 6.25 ⑤ 11.05 ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	完形
81	〃	〃	①(16.8) ② 5.65 ⑤(11) ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや粗。焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存⅓
82	〃	〃	① 17.5 ② 5.65 ⑤ 11.2 ⑥ 0.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存⅘
83	〃	〃	①(18) ② 5.55 ⑤(10.2) ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや粗。焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存¼
84	〃	〃	①(18) ② 5.9 ⑤(12.4) ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成不良。色調内外面淡黄灰色。	残存⅔
85	〃	〃	①(18.2) ② 5.95 ⑤ 12.8 ⑥ 0.65	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存½
86	〃	〃	① 13.7 ② 4 ⑤ 8.9 ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面淡灰色。	残存⅔
87	〃	〃	①(13.85) ② 4.2 ⑤ 9.7 ⑥ 0.45	底部外面ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅔
88	〃	〃	① 14 ② 4 ⑤ 9.2 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅘
89	〃	〃	① 14 ② 3.9 ⑤ 9.8 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	完形
90	〃	〃	① 14 ② 3.9 ⑤ 9.3 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存¾
91	〃	〃	①(14.4) ② 4.5 ⑤(9) ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内面暗灰色、外面青灰色。	残存⅔
92	〃	〃	① 14.45 ② 4.1 ⑤ 10.6 ⑥ 0.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、密。焼成良好。色調内外面灰色。	完形
93	〃	〃	① 14.4 ② 3.5 ⑤ 9.6 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅓
94	〃	〃	① 14.4 ② 4.3 ⑤ 9.4 ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。焼成やや良好。色調内面灰色、外面暗灰色。	残存¾

遺物番号	出土地点	器種	法量(cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高	調整及び特徴	備考
95	灰原	杯身	① 14.4 ② 3.55 ⑤ 9.1 ⑥ 0.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存3/4
96	〃	〃	① 14.55 ② 4 ⑤ 9.2 ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや良好。色調内外面暗灰色。	残存4/5
97	〃	〃	①(14.6) ② 3.9 ⑤(9.1) ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成やや良好。色調内外面淡青灰色。	残存1/2
98	〃	〃	①(14.4) ② 4 ⑤ 9 ⑥ 0.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、密。 焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存2/3
99	〃	〃	① 15.5 ② 4.3 ⑤ 9.6 ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成やや軟質。色調内外面白味がかった淡黄灰色。	残存2/3
100	〃	〃	① 17.7 ② 5.25 ⑤ 10.9 ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、粗。 焼成やや軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存2/3
101	〃	〃	①(18) ② 5 ⑤(10.6) ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存1/3
102	〃	〃	① 19 ② 5.55 ⑤ 12 ⑥ 0.6	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。 焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存3/4
103	〃	高台付皿	① 17.8 ② 3.4 ⑤ 11.9 ⑥ 0.45	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面淡灰色。	残存4/5
104	〃	〃	① 23.6 ② 4.6 ⑤ 18.6 ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存2/3
105	〃	〃	① 23.8 ② 4.25 ⑤ 18.25 ⑥ 0.55	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存1/2
106	〃	〃	①(24) ② 4.2 ⑤(19) ⑥ 0.5	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面くすんだ淡黄灰色。	少片
107	〃	〃	①(25) ② 4.45 ⑤(19.8) ⑥ 0.55	底部外面回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。 焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存1/4
108	〃	〃	①(25.3) ② 6.7 ⑤(19.8) ⑥ 0.55	底部外面回転ナデ、内画不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。 焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存1/5
109	〃	皿	① 14.6 ② 3.1	底部外面ヘラ切り未調整、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、粗。 焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存3/4
110	〃	〃	①(13.6) ② 2.2	底部外面ヘラ切り後ナデ、他は回転ナデ。 胎土細粒わずかに含む、やや粗。焼成やや軟質。 色調内外面淡黄灰色。	残存1/3
111	〃	〃	① 19 ② 2.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや軟質。色調内外面灰色。	ほぼ完形
112	〃	〃	① 19.2 ② 2.7	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。 焼成やや軟質。色調内外面淡茶灰色。	ほぼ完形
113	〃	〃	① 19.65 ② 2.75	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。 焼成軟質。色調内外面淡黄灰色。	ほぼ完形
114	〃	〃	① 21 ② 2.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成良好。色調内外面灰色。	残存2/3
115	〃	〃	① 22 ② 2.95	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、粗。 焼成やや軟質。色調内外面くすんだ淡黄灰色。	ほぼ完形
116	〃	〃	①(20) ② 2.3	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。 焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存1/4
117	〃	〃	① 20 ② 2.4	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。 焼成やや良好。色調内外面淡灰色。	残存2/3
118	〃	〃	①(20) ② 2.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。 他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。 焼成やや軟質。色調内外面淡黄灰色。	残存1/2

遺物番号	出土地点	器種	法量(cm) ①口径 ②器高 ③つまみ径 ④つまみ高 ⑤高台径 ⑥高台高 ⑦脚端径 ⑧胴部最大径	調整及び特徴	備考
119	灰原	皿	①(20) ② 2.85	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存⅔
120	〃	〃	① 20.2 ② 2.9	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、粗。焼成軟質。色調内面くすんだ淡黄灰色、外面淡茶灰色。	ほぼ完形
121	〃	〃	① 20.4 ② 2.7	底部外面ヘラ切り未調整、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存½
122	〃	〃	① 19.8 ② 2.65	底部外面ヘラ切り後ナデ、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	ほぼ完形
123	〃	甕	①(20)	口縁部内外回転ナデ、胴部内外面タタキ。胎土砂粒、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面淡黄灰色。	少片
124	〃	〃	⑧(24.8)	残存部内面不定方向のナデ、外面回転ナデ。胎土細粒やや含む、密。焼成良好。色調内面青灰色、外面淡灰色。	少片
125	〃	〃		残存部内外面ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや粗。焼成やや良好。色調内外面淡黄灰色。	少片
126	〃	高杯	①(19.4) ② 7.6 ⑦ 10	杯体部下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存¾
127	〃	〃	①(20) ② 8.15 ⑦(9.8)	杯体部下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面暗灰色。	残存⅚
128	〃	〃	① 23.9 ② 13.65 ⑦(14.8)	杯体部下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面青灰色。	残存¾
129	〃	〃	①(24) ② 15.4 ⑦ 13.7	杯体部下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅔
130	〃	〃	① 24.8 ② 14.6 ⑦ 14.35	杯体部下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや密。焼成やや良好。色調内外面灰色。	残存⅔
131	〃	〃	①(26)	杯体部下端回転ヘラ削り、内面不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成やや軟質。色調内外面灰色。	残存杯部少片 脚部欠損
132	〃	〃	② 8.5 ⑦(11)	残存部内外面回転ナデ。胎土細粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面青灰色。	残存脚部⅓ 杯部欠損
133	〃	〃	② 5.8 ⑦ 11.1	残存部内外面回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存脚部½ 杯部欠損
134	〃	壺	①(14)	残存部内外面回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	少片
135	〃	壺	①(12)	残存部内外面回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや密。焼成良好。色調内外面暗灰色。	少片
136	〃	甕	① 18.9	残存部内外面回転ナデ。胎土砂粒わずかに含む、やや粗。焼成良好。色調内外面灰色。	少片
137	〃	短頸壺	①(13)	残存部内外面回転ナデ。胎土細粒わずかに含む、やや粗。焼成良好。色調内外面暗灰色。	少片
138	〃	長頸壺	⑤ 10.8 ⑥ 0.7 ⑧(19.3)	残存部胴部外面下端回転ヘラ削り。他は回転ナデ。胎土細粒やや含む、密。焼成良好。色調内面暗青灰色、外面淡灰色。	残存½
139	〃	〃	⑤(12.1) ⑥ 0.8 ⑧(20.1)	残存部胴部外面下端回転ヘラ削り。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内外面灰色。	残存⅕
140	〃	〃	⑤(12.2) ⑥ 0.8 ⑧(22)	残存部胴部外面下端回転ヘラ削り。他は回転ナデ。胎土砂粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内面灰色、外面淡茶灰色。	残存¼
141	〃	鉢	① 21.9	残存部内外面回転ナデ。胎土砂粒やや含む、やや粗。焼成良好。色調内面灰色、外面暗青灰色。	残存⅔
142	〃	〃	①(22.8) ② 16.6	残存部内面下端不定方向のナデ。他は回転ナデ。胎土細粒多く含む、やや密。焼成良好。色調内面灰色、外面暗青灰色。	残存⅓

Ⅳ．まとめ

石坂Ｃ１号・Ｃ２号窯跡の調査について記したが、以下出土遺物について考えてみたい。

年代

Ｃ１号窯跡・Ｃ２号窯跡出土須恵器はおおよそ同時期で８世紀代に属するものであることはまちがいないが、より細かい年代を決定することはそれほど容易ではない。８世紀代の須恵器については、細分化がそれほどなされていない現状だからである。原因には当該期の窯跡の調査例がそれほど多くなかったことや、大宰府政庁跡の奈良時代〈註１〉の遺構の調査が上層遺構のために行えなかったことなどが挙げられると思う。しかし、ここ数年牛頸窯跡群内でも県営牛頸ダム工事、春日市春日地区の区画整理事業、そして大野城市の牛頸区画整理事業に伴う発掘調査によって７世紀後半～８世紀代の窯跡が数多く知られることとなった。それらの多くが整理作業中であるが近いうちに報告が成されることとなり、様相も判明していくことになると思われる。また大宰府でも年号の知れる木簡を共伴することによって年代を決定できる史料が出土している。

石坂窯跡〈註２〉出土須恵器の年代決定に当たっては消費地である大宰府での出土遺物を参考にするのが適当と思われる。大宰府では８世紀前半から中頃をＳＫ1106出土遺物、後半から平安時代にかけての遺物をＳＥ1081、ＳＫ1084出土遺物に代表させている。また、大宰府政庁跡中門基壇中に鎮壇具として埋納されていた長頸壺、壺〈註３〉を大宰府Ⅱ期当初のもの（８世紀前半でも古い段階）と考えられている。しかし、ＳＫ1106出土遺物は土師器であるし、ＳＥ1081、ＳＫ1084も出土須恵器は少いこと〈註４〉もあって石坂窯跡群出土須恵器のようなものには直接参考にはできないものであった。しかし、昭和58年度の第85次調査ではＳＤ2340において天平６年（西暦734年）と読める木簡と共伴して多くの須恵器が出土した。杯は第35図14のような身と高台が一直線となるようなものも見られるが、その他は体部と底部の境が丸味を持つために不明瞭なものがほとんどである。また径高指数（器高÷口径×100）は30をやや越えるかまたはそれ以下で低い感じを持たせるものである〈註５〉。高台は低いがわずかに外側へふんばるような形態である。これらの特徴は７世紀後半の高台付杯の系列上にあるものと無理なく考えられる。石坂窯跡の場合はこれらに似た形態を持つものもあるが、角張って体部と底部の境が明瞭になるものや、Ｃ１号窯91のように器高が高く、体部と高台が一直線に近くなるような形態も見られるようになる。従って石坂Ｃ１号・Ｃ２号窯跡出土須恵器はＳＤ2340の後に位置づけられるもので８世紀でも中頃から後半にかけてのものと考えられる。窯跡下方平坦面トレンチ出土土師器は８世紀後半のものと考えられることも傍証となる〈註６〉。

その他

遺物について気づいたことを若干述べてみたい。杯についてＣ１号窯跡では44個、Ｃ２号窯跡では50個図示したが、それらの口径（復元口径も含む）をミリで四捨五入した数字と全体に占める割合を表わしたものが第１表である。これをみると、14cmが最も多い。15cmを含めると全体の５割から６割を占めることになる。他に11～12cm、18cmがやや多い。古墳時代の須恵器では一型式内での法量はほぼ同じで、法量が型式設定の目安ともなり得たが、この時代には同一器種内でも大きさの違うものがいくつか作られているようだ。もちろん、石坂Ｃ１号・Ｃ２号窯跡出土須恵器もまだ細分しなければならないので、これら法量の違うものが一度に作られたものとは断言できないが、一器種一法量ではないようである。奈良時代は唐尺が使われたと考えられるが、唐尺の大尺を約30cmとすれば、４寸、５寸、６寸がそれぞれ12cm、15cm、18cmとなり、前述の個数の多い口径と合う。あるいはこれらの尺度を基本としていたのであろうか。径高指数については表示しなかったが、高台が身の縁辺部から離れて付けられるものの場合30をわずかに越えるかそれ以下のものが多く、縁辺近くに付けられるものに30を越えるものが多く、相関関係があるようだ。

蓋については、先端部の断面形や折れ曲げ方に差があるが、明確な分類はなし得ていない。

鉄鉢型土器については、Ｃ1号窯跡122が尖底状をなすと思われる。前記大宰府ＳＤ2340出土の同種の鉢は平底であり、尖底をなすに至るのが、８世紀前半でも新しい方の時期以降であることを示すものと思われる。平城宮の場合は平城宮Ⅰ～Ⅱの時期(実年代の一端はそれぞれ710年、725年）では平底もしくは丸底ふうの平底を持つのが一般的で、平城宮Ⅳ(実年代の一端は750年）には尖底状のものが出現し、その後この形態が一般化するという。〈註7〉大宰府周辺でも軌を一にしていると言えよう。

円面硯

多くの杯類その他の器種の中で円面硯破片が４点だけ出土した。これらは同一個体の破片と思われる。圏足硯に属すが、陸部と海部がはっきりと分かれ、陸部に内堤はなく、硯部と圏台は連続して作られたものと思われる。この特徴は横田賢次郎氏の分類によれば陶硯Ⅰ－Ｃ－ｂ・イ類に含まれ、８世紀後半頃に比定される。また、同氏によれば、大宰府史跡第26次調査（政庁後殿地区）〈註8〉、同84次調査（不丁地区官衙）では転用硯がそれぞれ約８割、９割を占め、他の調査地でも大きな差異はないと見て差しつかえはないとされる。そして「ごく一般的には転用硯とくに杯蓋硯が多く使用され、定形硯はむしろ限られた場所もしくは所有者であったと考えることができよう。」と述べられている。実際窯跡から出土する硯類も非常に少ない。硯はやや複雑な造りとは言え、須恵器工人にとってみれば充分に作れるものと思われるが、消費者の要求が少いためあまり作られなかったと考えられる。決して、少量しか作れなかったために、消費地でも特別視されたわけではないだろう。

この項を書くにあたっては、九州歴史資料館の森田勉氏、横田賢次郎氏を始めとする技師諸氏と太宰府市教育委員会山本信夫氏に多くのご教示を得た。厚く感謝の意を表したい。

〈註1〉　大宰府周辺では

①亀井明徳・高橋章「向佐野・長浦窯跡の調査」九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅵ　福岡県教育委員会　1975

②田崎博之「干潟遺跡出土土器の編年」『干潟遺跡Ⅰ』　福岡県教育委員会　1980

③森田勉「大宰府の出土品③－土器・陶磁器」『佛教芸術』146号、1983

などがある。

〈註2〉　『大宰府史跡－昭和58年度発掘調査概報－』　九州歴史資料館　1984

〈註3〉『大宰府史跡－昭和51年度発掘調査概報－』　九州歴史資料館　1977　P91

〈註4〉　註1③文献　②文献

〈註5〉　『平城宮発掘調査報告Ⅶ』　奈良国立文化財研究所　1976　P81

〈註6〉　九州歴史資料館森田勉氏のご教示による。

〈註7〉　註5文献　P144

〈註8〉　横田賢次郎「福岡県内出土の硯について一分類と編年に関する一試案」九州歴史資料館研究論集9　1983

第1表．杯における口径ごとの個数と割合

口径	C1号窯跡出土杯		C2号窯跡出土杯	
cm	個　数	%	個　数	%
8	0	0	1	2
9	0	0	0	0
10	1	2.3	0	0
11	1	2.3	7	14
12	6	13.6	0	0
13	4	9.1	2	4
14	19	43.2	20	40
15	9	20.4	6	12
16	0	0	4	8
17	1	2.3	3	6
18	3	6.8	6	12
19	0	0	1	2
計	44	100	50	100

最後に現地調査並びに整理作業に当たっていただいた方々のお名前を記して感謝の意を表したい。

赤星年子・片田江和子・片田江春行・篠原東美子・田島幸子・田中フミ子・中島和子・花田美代子・原田敬子・林はるみ・山崎三枝子・湯川玲子・吉原京子・吉原満義

中山和子・竹林りさ・住吉千鶴子

図　　版

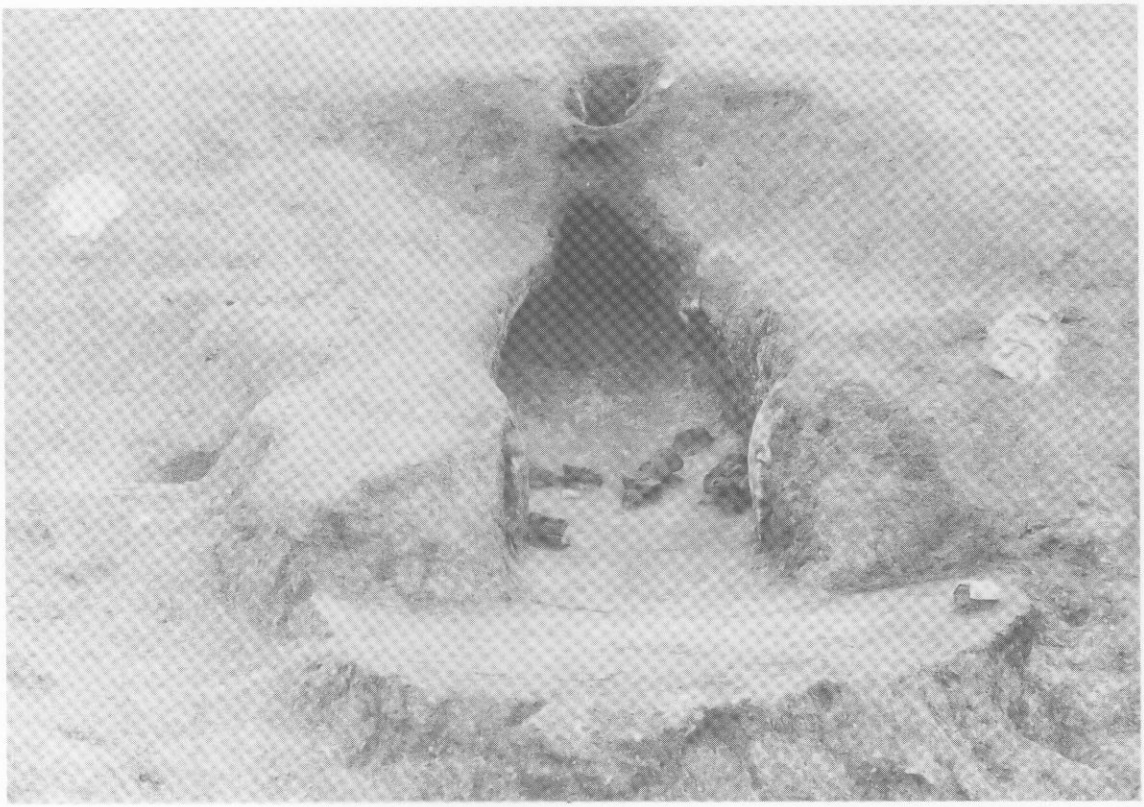
(1)　調査前

(2)　調査後

図版 2

(1)　C1 号窯跡検出状態

(2)　C1 号窯跡調査後

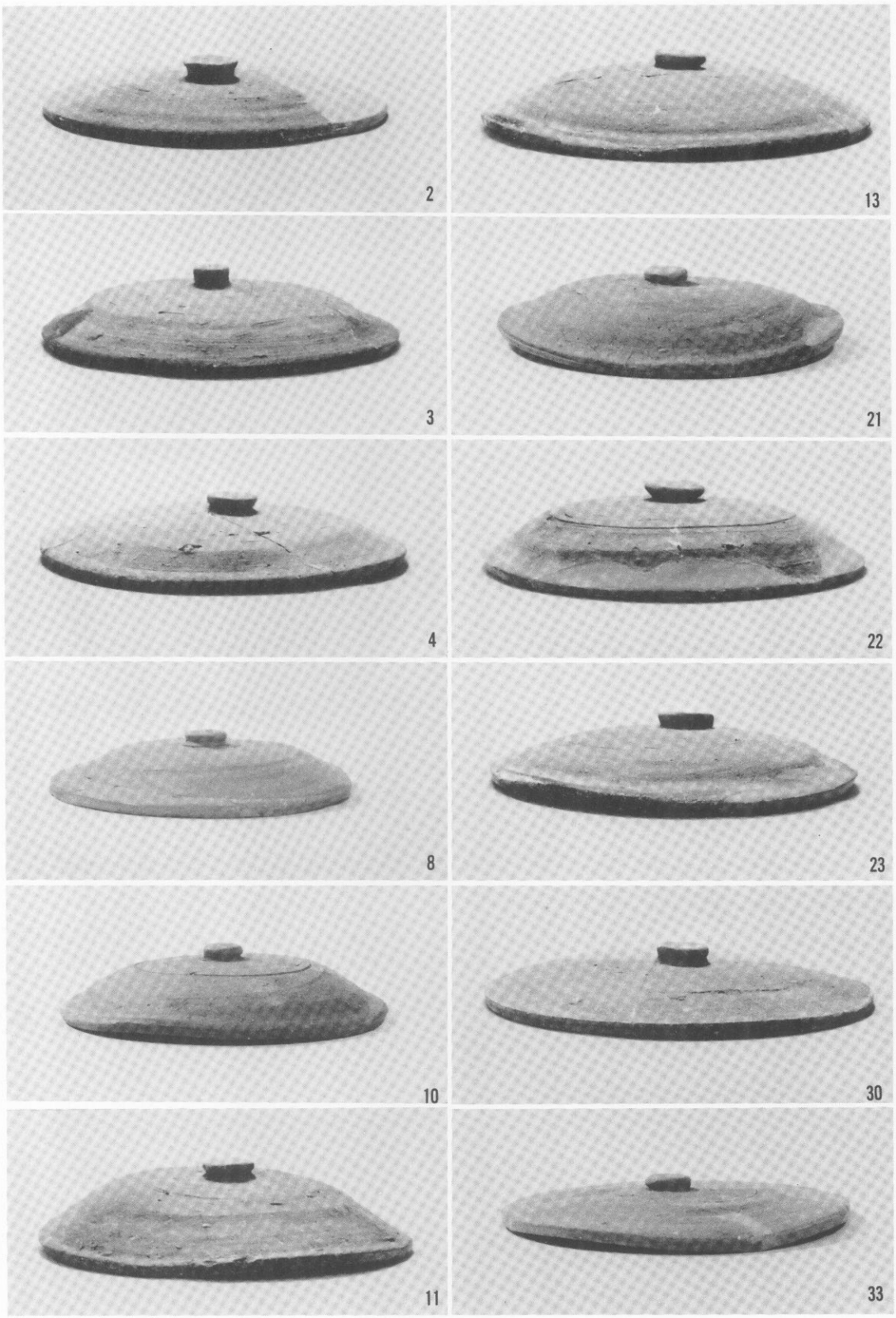


(1)　C1 号窯跡

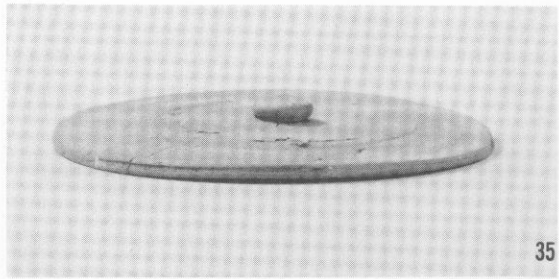
(2)　C1 号窯跡側壁

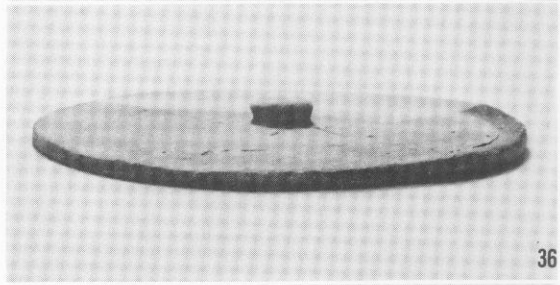
(1)　C2 号窯跡灰原

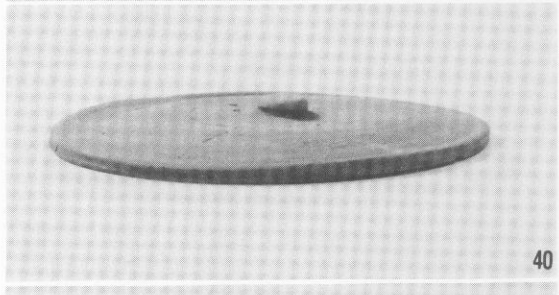
(2)　C2 号窯跡灰原

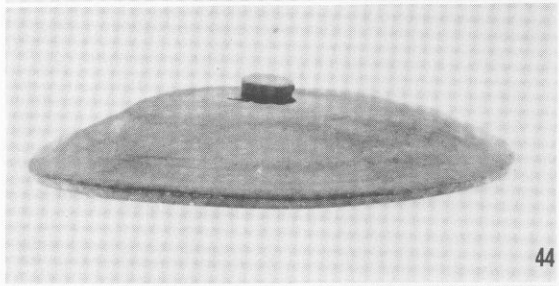


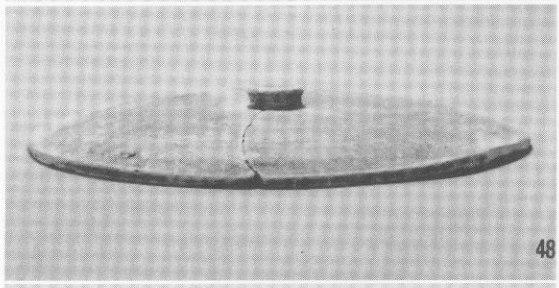
C１号窯跡出土須恵器①

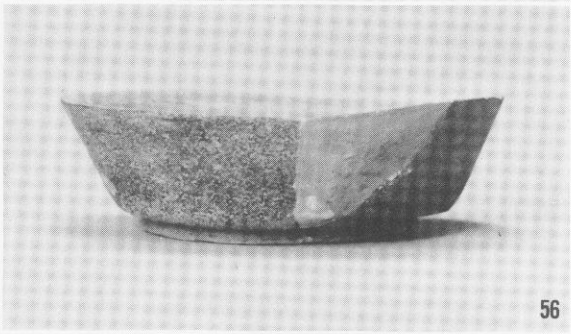


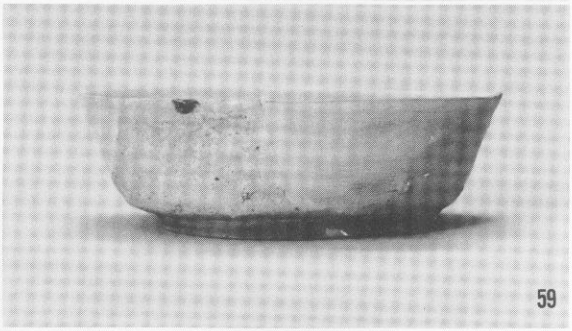




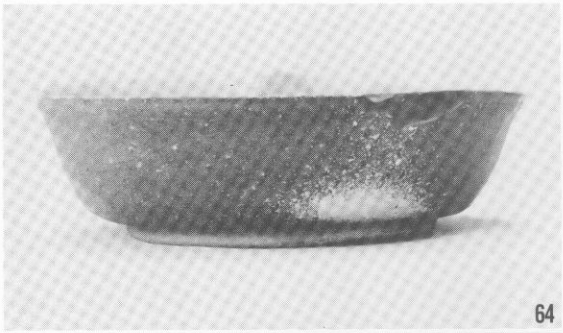


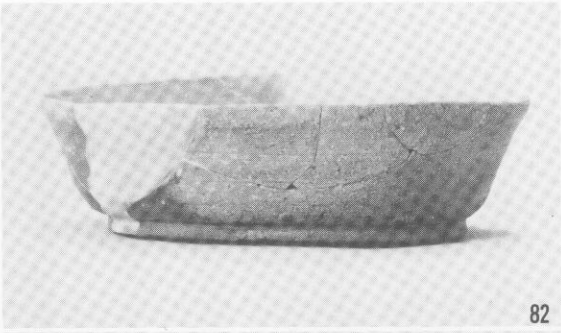


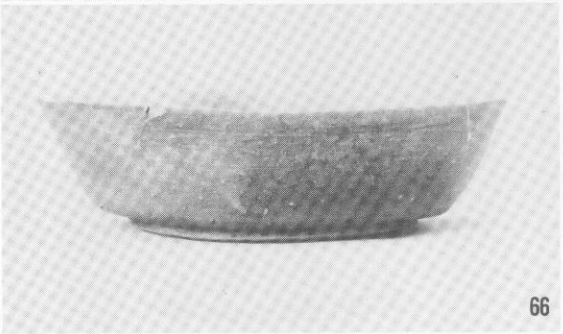


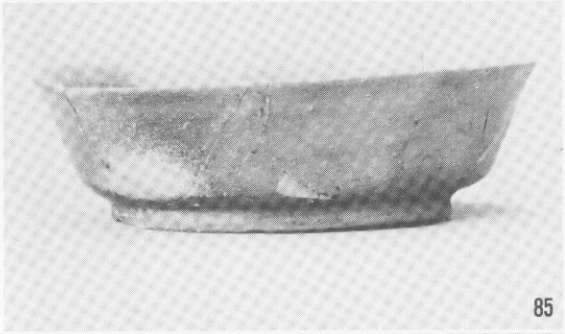


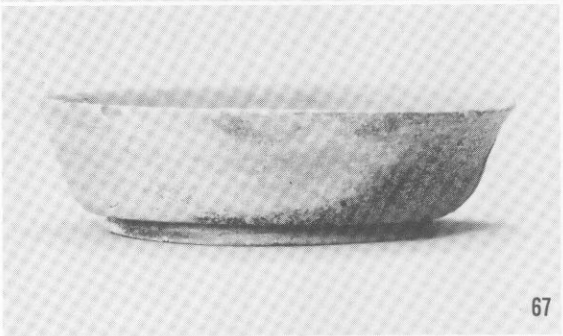
C１号窯跡出土須恵器②

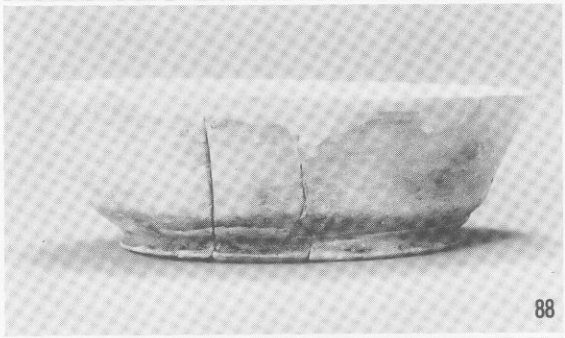


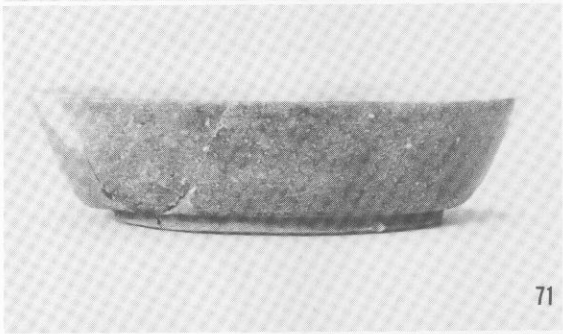


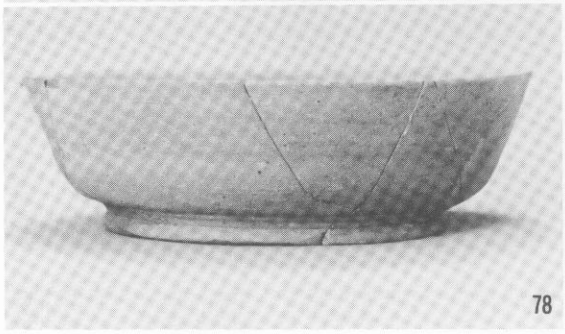


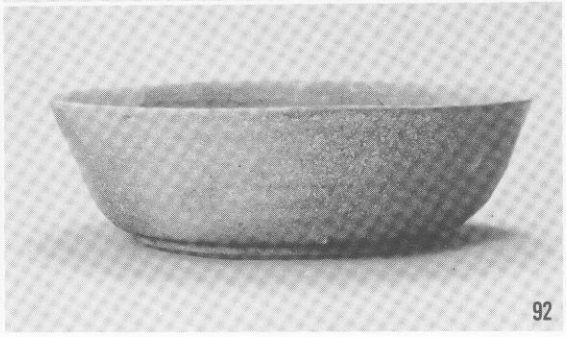






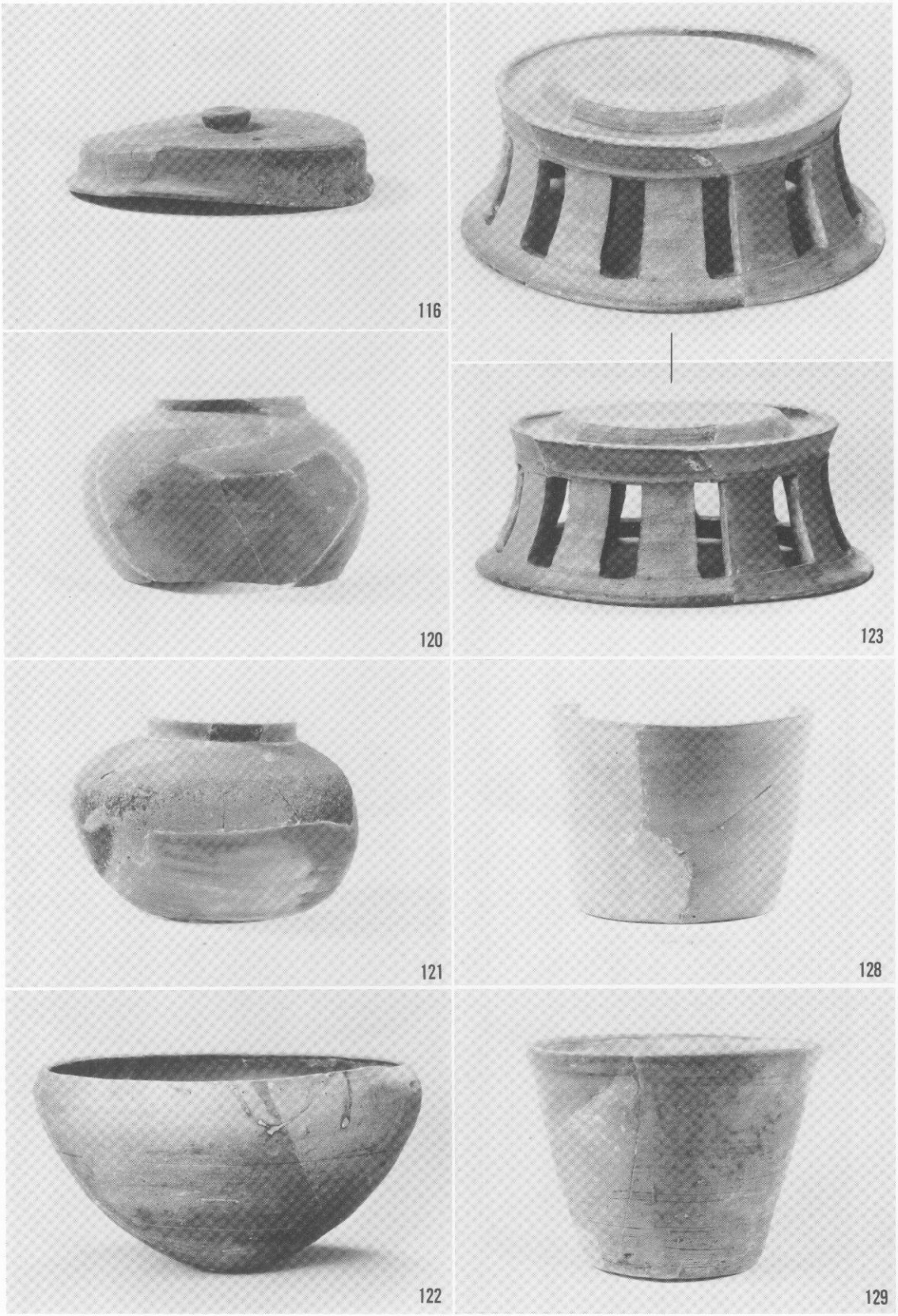




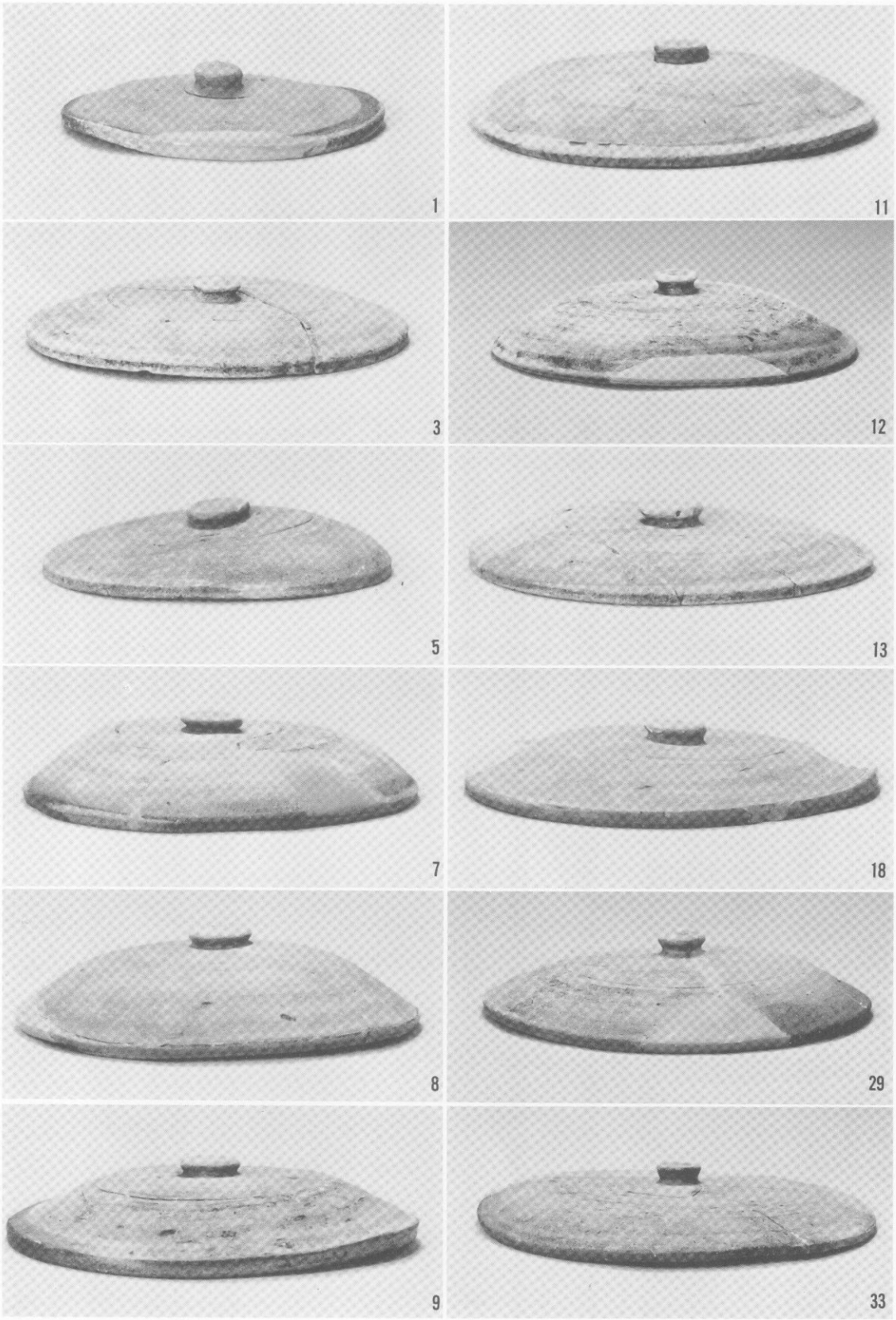


C１号窯跡出土須恵器③

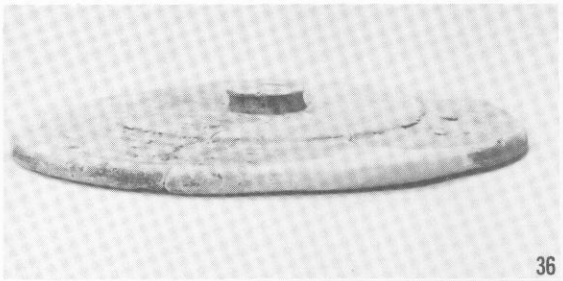
C１号窯跡出土須恵器④

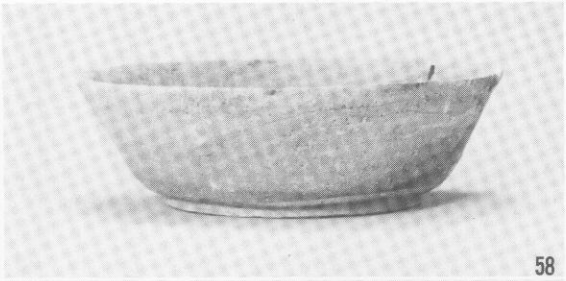


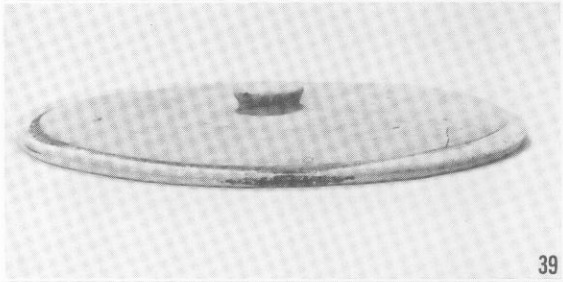
C１号窯跡出土須恵器⑤

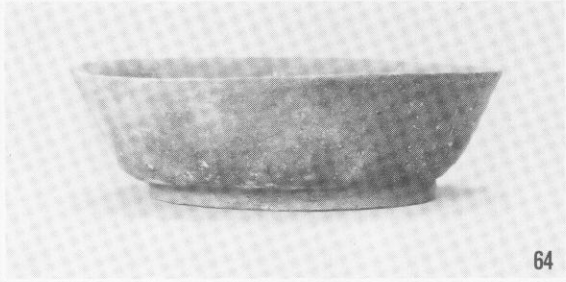


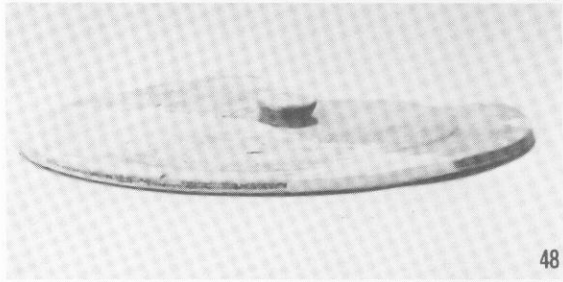
C２号窯跡出土須恵器①

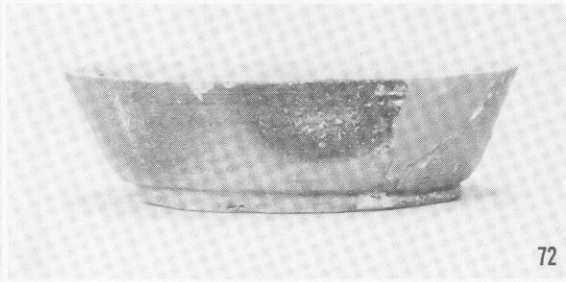

36

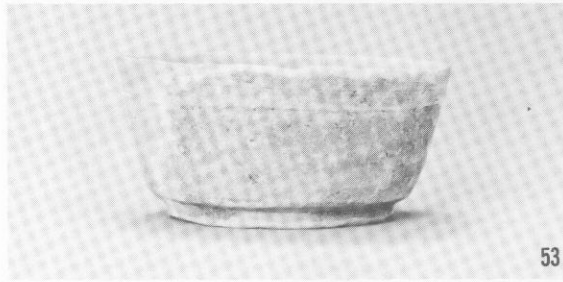

58

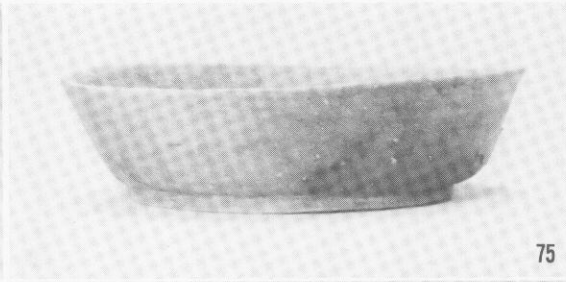

39

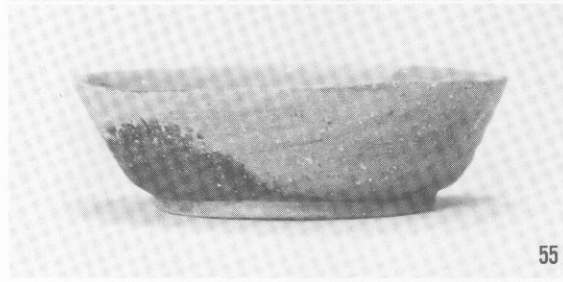

64

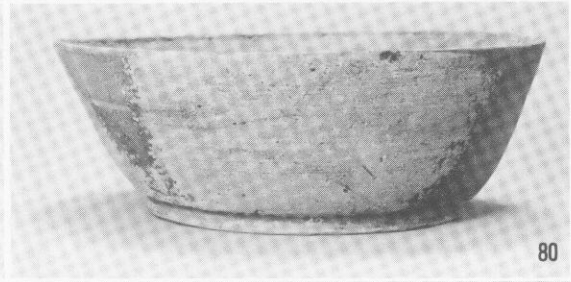

48


72


53


75

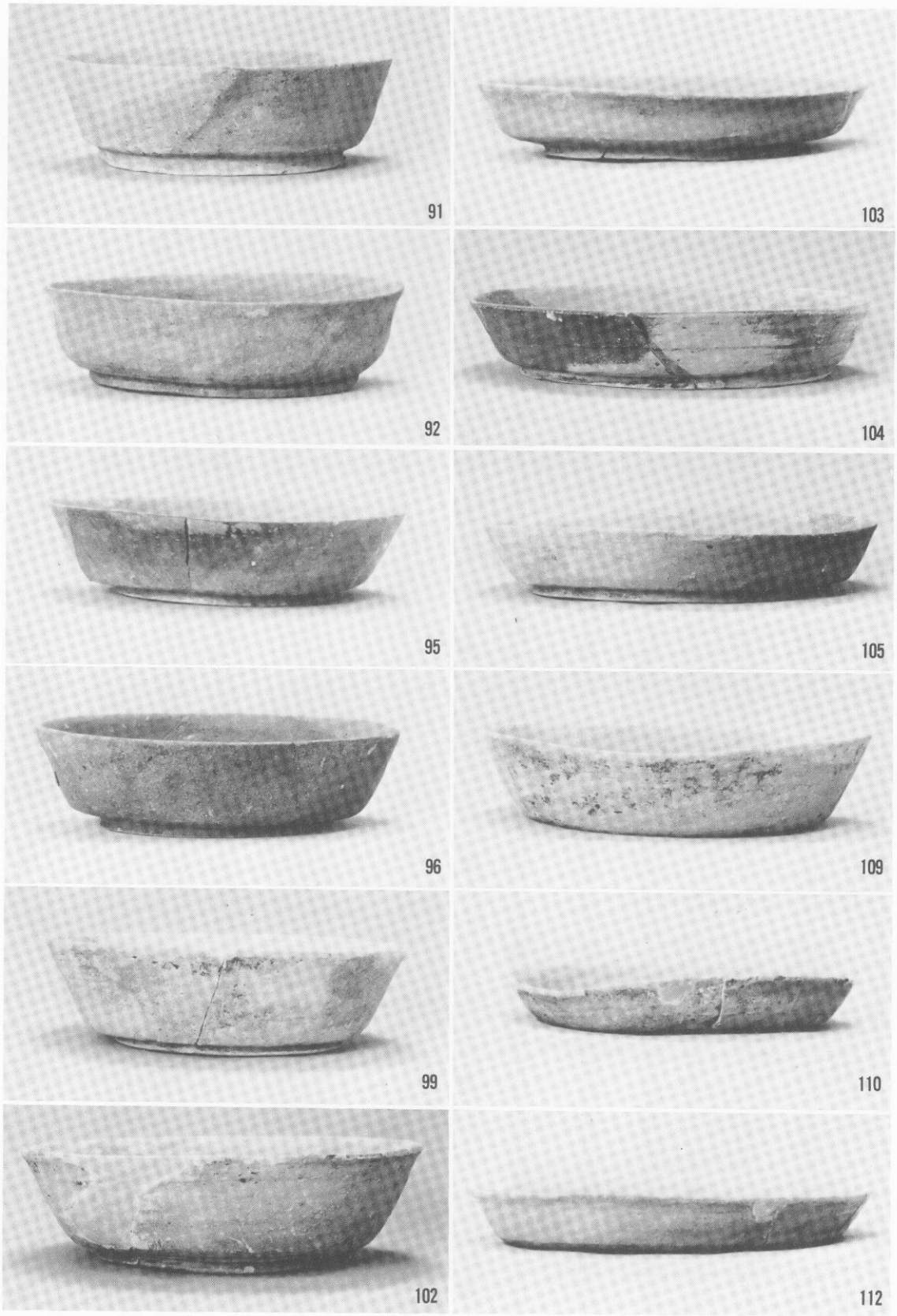

55


80

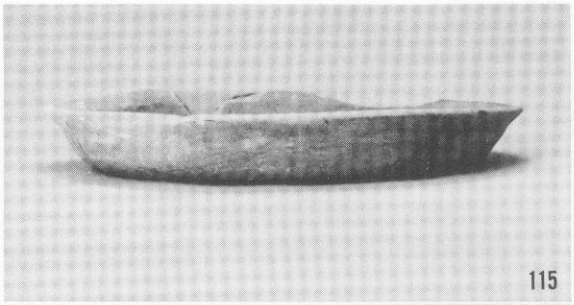
56

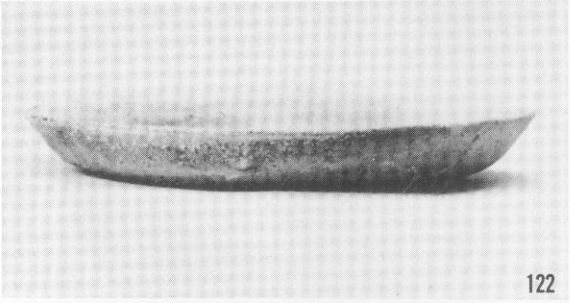
82

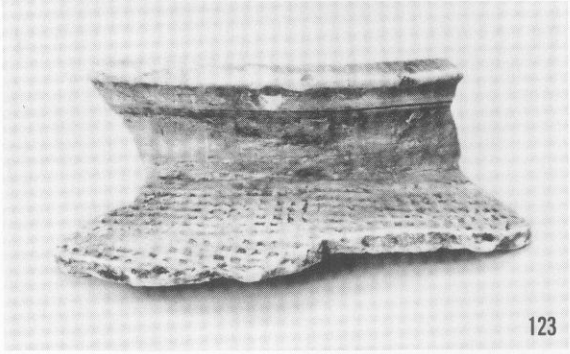
C２号窯跡出土須恵器②

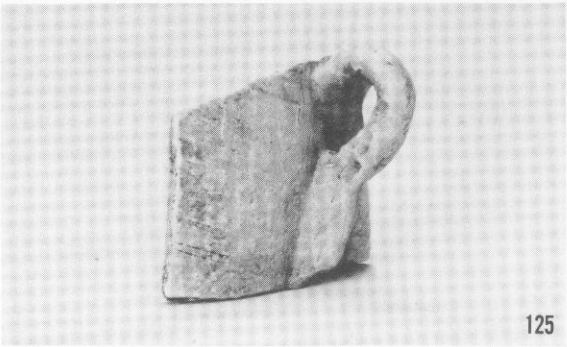


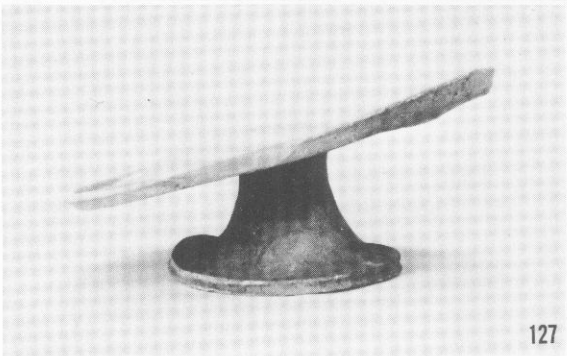
C２号窯跡出土須恵器③

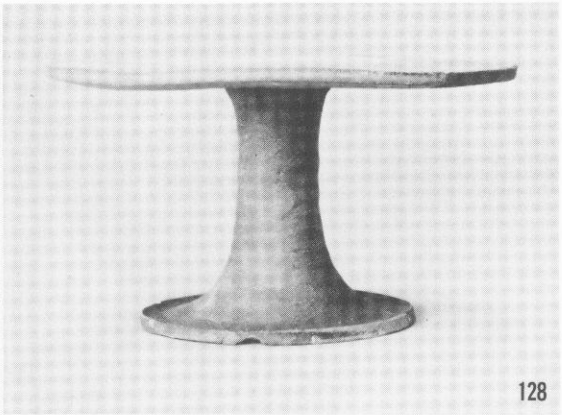

115


122


123


125


127

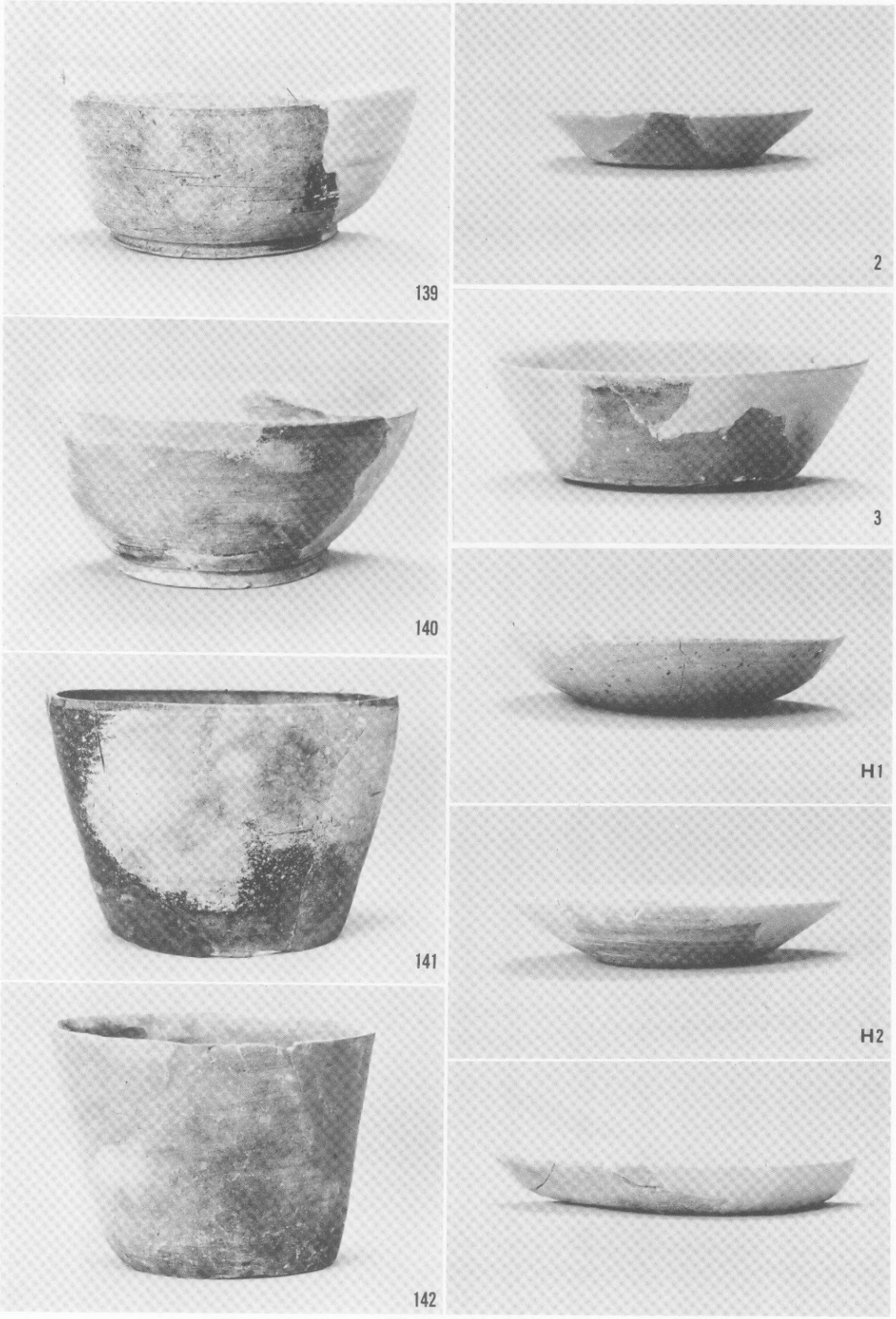

128

129

130

138

C２号窯跡出土須恵器④



C２号窯跡・トレンチ出土須恵器

大野城市文化財調査報告書

第 14 集

昭和60年 3 月31日

発　行　大野城市教育委員会
福岡県大野城市曙町 2 丁目17番地

印　刷　栄光印刷株式会社
福岡市東区箱崎下入道 8Q0